

# 消 防 統 計

平成24年中



谷塚ステーション(新庁舎)

平成24年4月1日開署

草 加 市 消 防 本 部

# 平成24年草加市 火災・救急・救助出動件数



## 【火災出動件数】

	平成24年	平成23年	増 減
火災件数	64	103	△ 39
建物	35	51	△ 16
車両	9	6	3
その他	20	46	△ 26

## 【救急出動件数】

	平成24年	平成23年	増 減
救急出動件数	10,537	10,216	321
火災	44	60	△ 16
水難	1	1	0
交通	1,202	1,235	△ 33
労働災害	88	90	△ 2
運動競技	49	58	△ 9
一般負傷	1,351	1,371	△ 20
加害	155	116	39
自損行為	148	146	2
急病	6,942	6,589	353
その他	557	550	7
救急支援 出場件数	1,227	1,566	△ 339



## 【救助出動件数】

	平成24年	平成23年	増 減
救助出動件数	110	115	△ 5
火災・建物	12	18	△ 6
火災・建物 以外	2	0	2
交通事故	28	19	9
水難事故	2	4	△ 2
機械事故	1	4	△ 3
建物事故	56	57	△ 1
その他	9	13	△ 4



# 目次

## 【火災統計】

火災の概要	P 1
月別火災発生状況	P 2
火災種別発生状況	P 3
建物火災用途別発生状況	P 4
車両火災用途別発生状況	P 5
その他火災用途別発生状況	P 6
建物出火箇所別発生状況 No. 1	P 7
建物出火箇所別発生状況 No. 2	P 8
時間別発生状況	P 9
町名別火災発生状況	P 10
担当区域別件数	P 11
原因別火災発生状況 No. 1	P 12
原因別火災発生状況 No. 2	P 13
近年の推移から見る 平成24年の特徴	P 14
近年の火災原因の推移について	P 15
過去10年間の火災概況	P 16
緊急消防援助隊の登録状況	P 17

## 【救急統計】

救急業務の実施状況	P 18
事故種別出動件数・搬送人員	P 19
町名別救急出動件数	P 20
救急隊別出動件数・搬送人員 No. 1	P 21
救急隊別出動件数・搬送人員 No. 2	P 22
月・曜日・時間別出動件数	P 23
現場到着所要時間別出動件数 (出場～現場到着)	P 24
現場到着所要時間別出動件数 (覚知～現場到着)	P 25
年齢別傷病程度別搬送人員 No. 1	P 26
年齢別傷病程度別搬送人員 No. 2	P 27
事故種別傷病程度別搬送人員	P 28
発生場所別搬送人員状況	P 29
市民に対する救命処置の講習会	P 30
心肺蘇生法が新しく変更されました！	P 31

## 【救助統計】

救助活動状況の概要	P 32
事故種別救助出動状況	P 33
事故種別救助活動状況	P 34
事故種別救助人員	P 35
平成24年中の主な 救助活動事例	P 36

## 【119番統計】

119番通報状況	P 37
平成24年火災報知専用電話等 (119番)種別受信状況	P 38



# 火災統計



青柳2号車

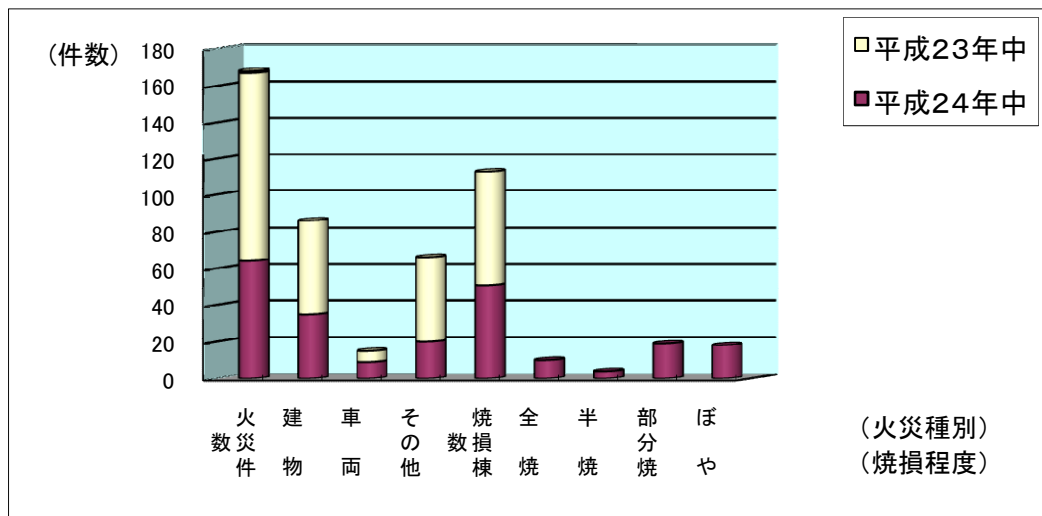
平成25年2月 青柳分署配備

# 火災の概要

	単位	平成24年中	平成23年中	増減
火災件数	件	64	103	△ 39
建物		35	51	△ 16
車両		9	6	3
その他		20	46	△ 26
焼損棟数	棟	51	62	△ 11
全焼		10	6	4
半焼		4	2	2
部分焼		19	24	△ 5
ぼや		18	30	△ 12
焼損床面積	m <sup>2</sup>	1,128	1,069	59
焼損表面積	m <sup>2</sup>	137	95	42
死者	人	1	3	△ 2
負傷者	人	7	12	△ 5
り災世帯	世帯	42	48	△ 6
全損		10	13	△ 3
半損		6	0	6
小損		26	35	△ 9
り災人員	人	103	124	△ 21
損害額	千円	83,895	54,547	29,348
建物(収容物含む)		76,709	51,873	24,836
車両		6,513	810	5,703
その他		673	1,864	△ 1191
出火率	%	2.6	4.2	△ 1.6

※ △は減数を表す。

出火率は、火災件数／草加市人口数×10,000にて算出する。



# 月別火災発生状況

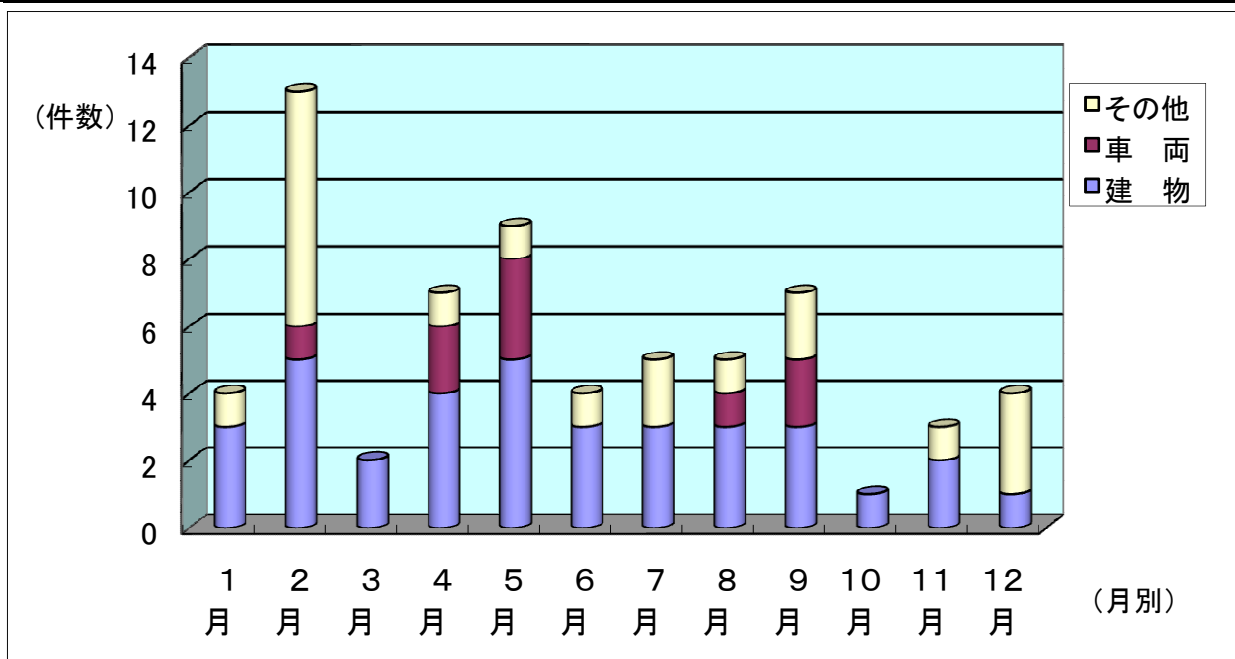
月別に火災件数をみると、2月の13件が最も多く、2番目は5月で9件の火災が発生しました。

建物火災の件数を月別で見ると、2月と5月の5件が最も多く、2番目は4月の4件と、火災の多発期に多い傾向ではなく、年間を通して発生しました。

平成24年中の火災件数は64件で、前年と比較すると39件減少し、過去10年間で最も少ない年になりました。

建物火災の件数にしても16件、その他火災については26件と、それぞれ減少となりました。

	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
建 物	3	5	2	4	5	3	3	3	3	1	2	1	35
車 両		1		2	3			1	2				9
その他	1	7		1	1	1	2	1	2		1	3	20
計	4	13	2	7	9	4	5	5	7	1	3	4	64



# 火災種別発生状況

火災種別ごとの平成24年中の火災発生状況の特徴は、次のとおりです。

## 建物火災

建物火災の件数は、35件で前年より16件減少し、火災総発生件数に占める割合は55%です。

住宅(専用・共同)からの出火は、21件発生し、前年より11件減少しました。

これら住宅からの出火による死者は、平成24年中、1人でした。

建物火災の件数は減少しましたが、焼損床面積は前年より59㎡、焼損表面積は42㎡とそれぞれ増加しました。

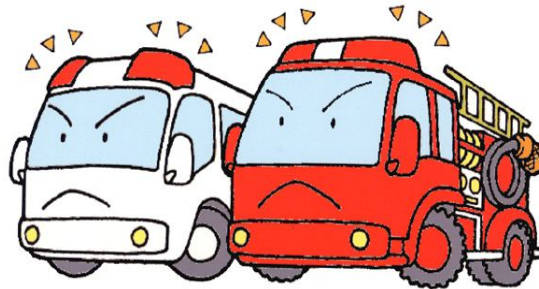
## 車両火災

車両火災の件数は9件で、前年と比べて3件増加しました。

## その他火災

その他火災の件数は20件発生し、前年に比べて26件減少しました。

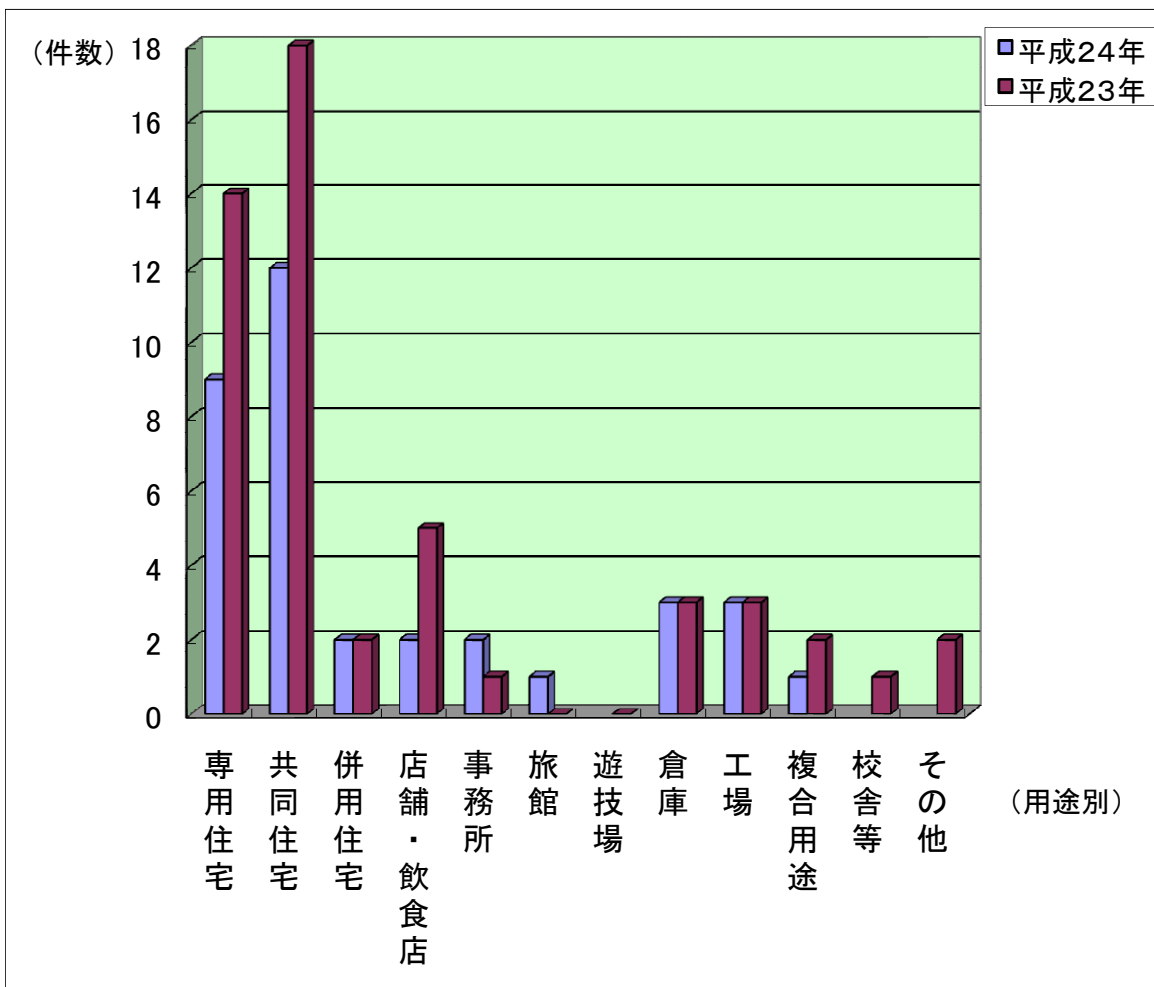
毎年、枯れ草火災やゴミ火災が多く発生しており、平成24年中にあっても11件発生し、その他火災の件数に占める割合の55%です。



# 建物火災用途別発生状況

## 平成24年中の主要原因

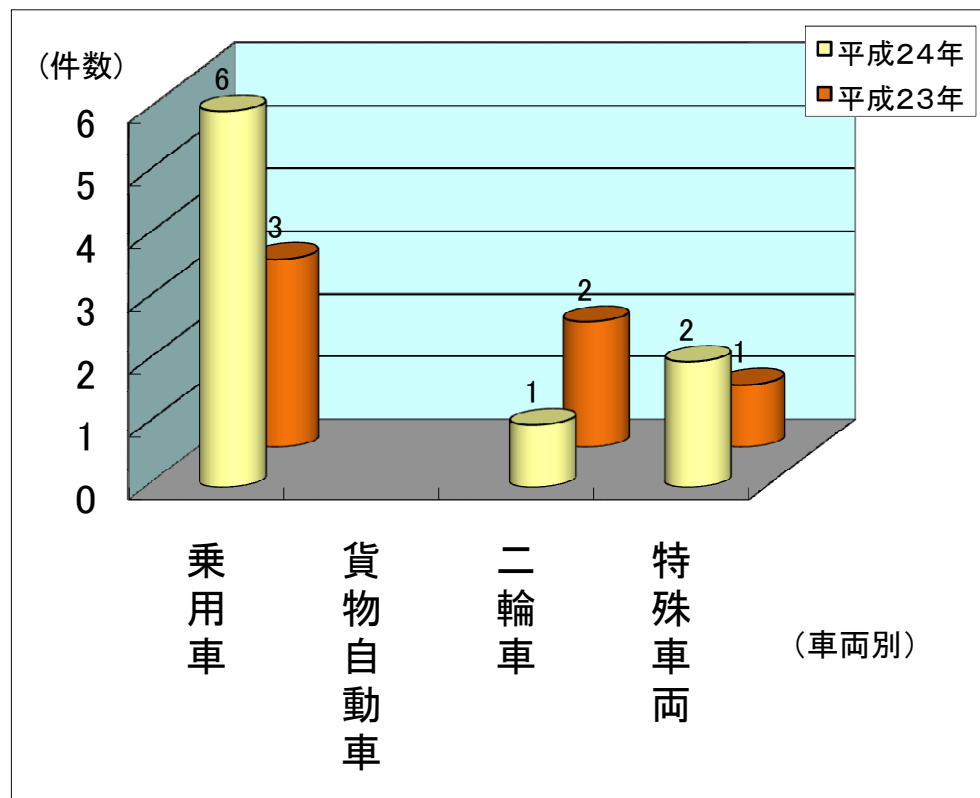
	平成24年	平成23年	比較増減	放火	コンロ	たばこ	その他
専用住宅	9	14	△ 5	3		2	4
共同住宅	12	18	△ 6	2	3	1	6
併用住宅	2	2	0			1	1
店舗・飲食店	2	5	△ 3		2		
事務所	2	1	1				2
旅館	1	0	1				1
遊技場		0	0				
倉庫	3	3	0	2			1
工場	3	3	0				3
複合用途	1	2	△ 1		1		
校舎等		1	△ 1				
その他		2	△ 2				
合計	35	51	△ 16	7	6	4	18





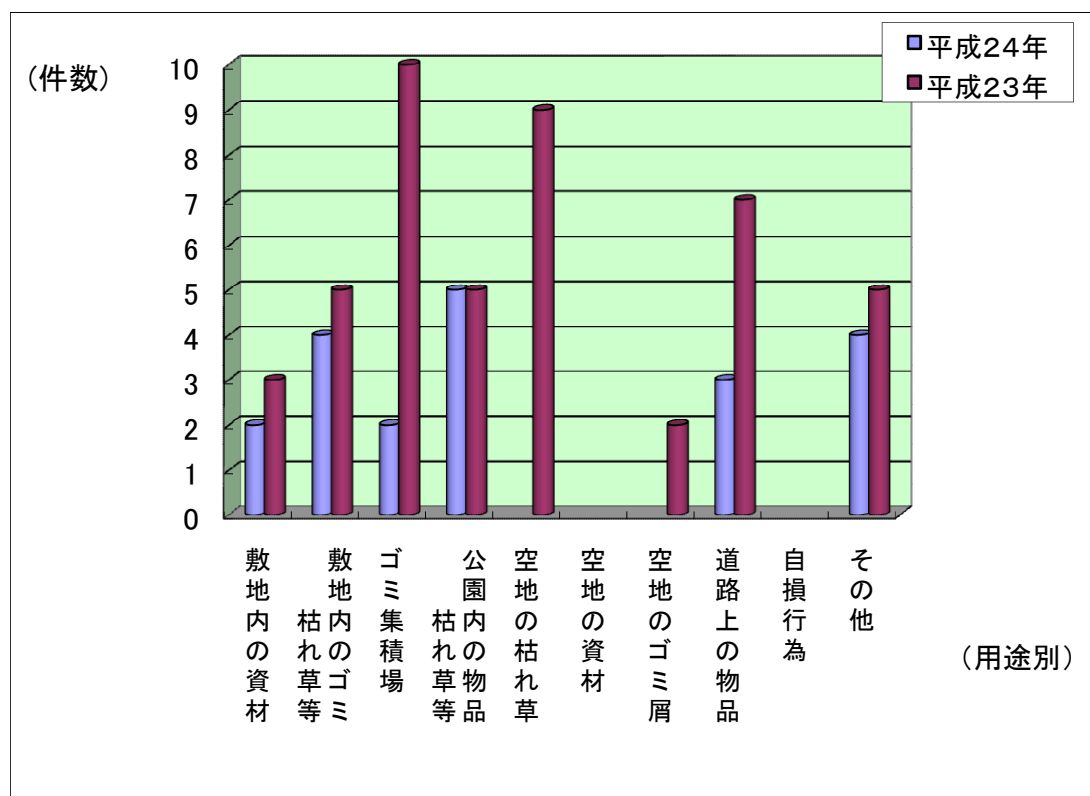
# 車両火災用途別発生状況

	平成24年	平成23年	比較増減
乗用車	6	3	3
貨物自動車			0
二輪車	1	2	△ 1
特殊車両	2	1	1
合計	9	6	3



## その他火災用途別発生状況

	平成24年	平成23年	比較増減
敷地内の資材	2	3	△ 1
敷地内のゴミ 枯れ草等	4	5	△ 1
ゴミ集積場	2	10	△ 8
公園内の物品 枯れ草等	5	5	0
空地の枯れ草		9	△ 9
空地の資材			0
空地のゴミ屑		2	△ 2
道路上の物品	3	7	△ 4
自損行為			0
その他	4	5	△ 1
合 計	20	46	△ 26



## 建物出火箇所別発生状況 No. 1

出火箇所別に見た平成24年中の特徴は、次のとおりです。

建物火災発生件数は、前年より16件減少しました。

出火箇所の上位は、居室の10件、次に工場・作業所の6件、台所の5件となっております。

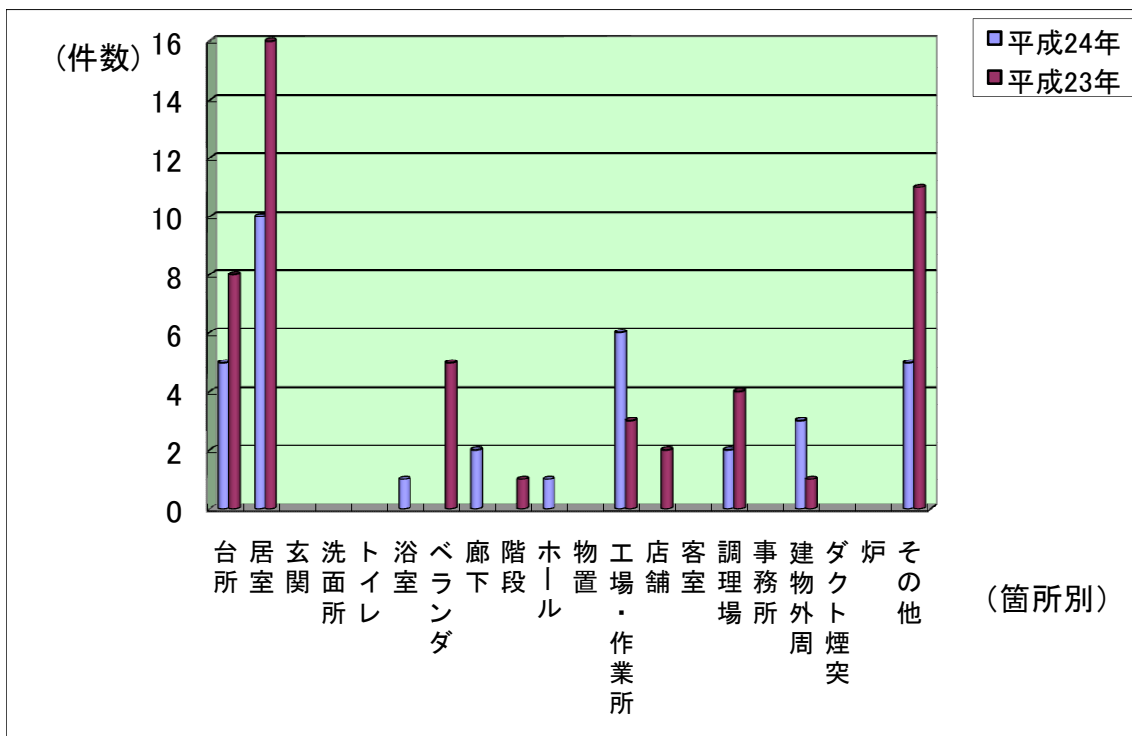
居室と台所からの出火は前年より9件減少しましたが、工場・作業所からの出火は3件増加し、この3箇所からの出火が建物火災全体の60%を占めています。



# 建物出火箇所別発生状況 No.2

## 平成24年中の主要原因

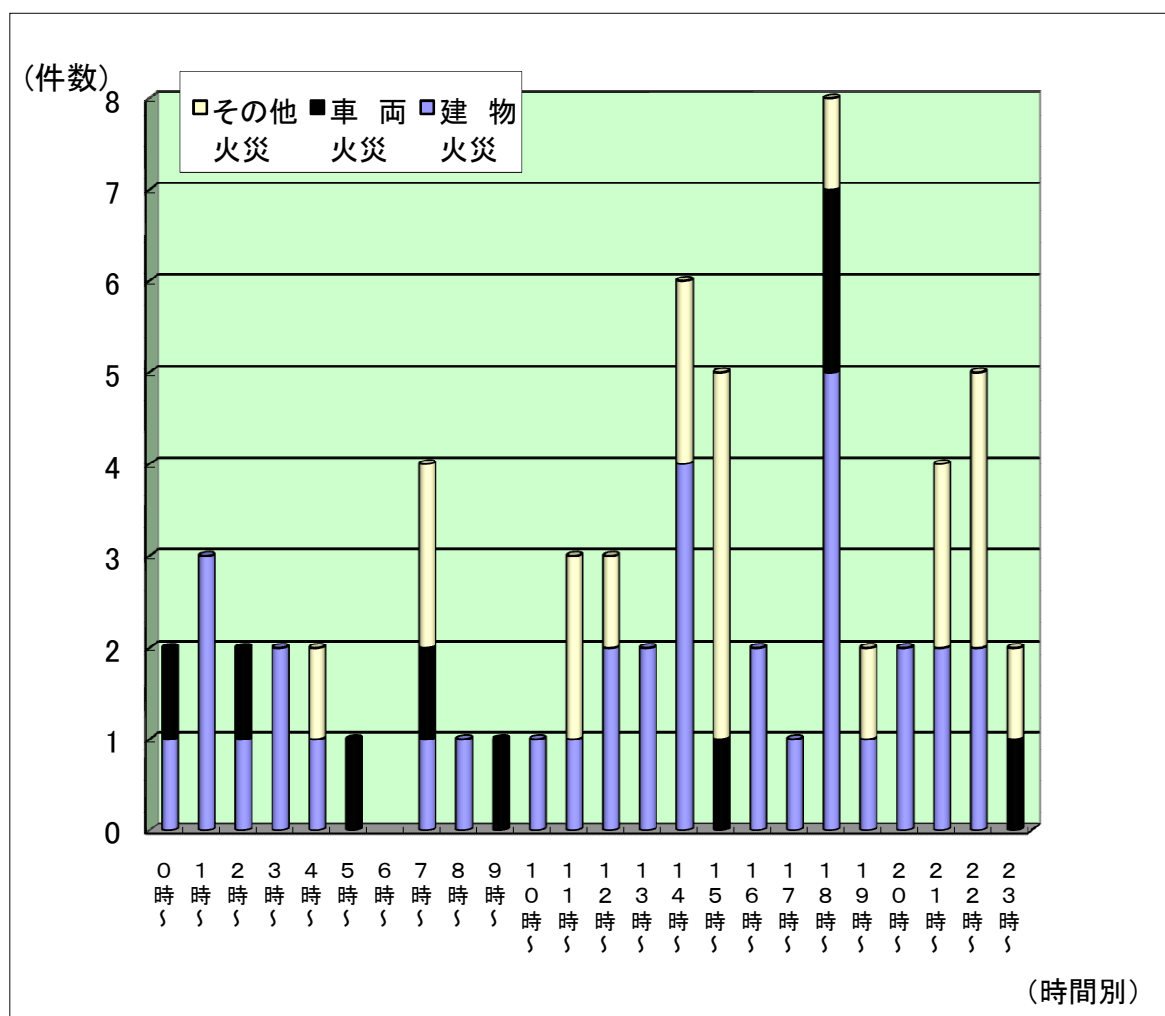
	平成24年	平成23年	比較増減	放火	こんろ	たばこ	その他
台所	5	8	△ 3		4		1
居室	10	16	△ 6			3	7
玄関			0				
洗面所			0				
トイレ			0				
浴室	1		1				1
ベランダ		5	△ 5				
廊下	2		2			1	1
階段		1	△ 1				
ホール	1		1	1			
物置			0				
工場・作業所	6	3	3				6
店舗		2	△ 2				
客室			0				
調理場	2	4	△ 2		2		
事務所			0				
建物外周	3	1	2				3
ダクト煙突			0				
炉			0				
その他	5	11	△ 6	1			4
合計	35	51	△ 16	2	6	4	23



# 時間別発生状況

	0時	1時	2時	3時	4時	5時	6時	7時	8時	9時	10時	11時	12時	13時	14時	15時	16時	17時	18時	19時	20時	21時	22時	23時	合計
建物火災	1	3	1	2	1			1	1		1	1	2	2	4		2	1	5	1	2	2	2		35
車両火災	1		1			1		1		1						1			2					1	9
その他火災					1			2				2	1		2	4			1	1		2	3	1	20
合計	2	3	2	2	2	1		4	1	1	1	3	3	2	6	5	2	1	8	2	2	4	5	2	64
放火等	1		2					1				1		1	2	3	1		1			3	4	1	21
その他の原因	1	3		2	2	1		3	1	1	1	2	3	1	4	2	1	1	7	2	2	1	1	1	43

※ 放火等は、放火及び放火の疑いをいう。



## 町名別火災発生状況

平成24年中の火災総件数を、町名別に見ると次のとおりです。  
 吉町が8件で最も多く、次に柿木町、氷川町の6件となります。  
 吉町の8件の火災種別は、建物火災4件、車両火災1件、その他火災3件の内訳となっており、6件が放火又は放火の疑いが原因でした。  
 また、平成24年中火災がなかった地域は、13地域でした。

## 町名別火災発生件数一覧

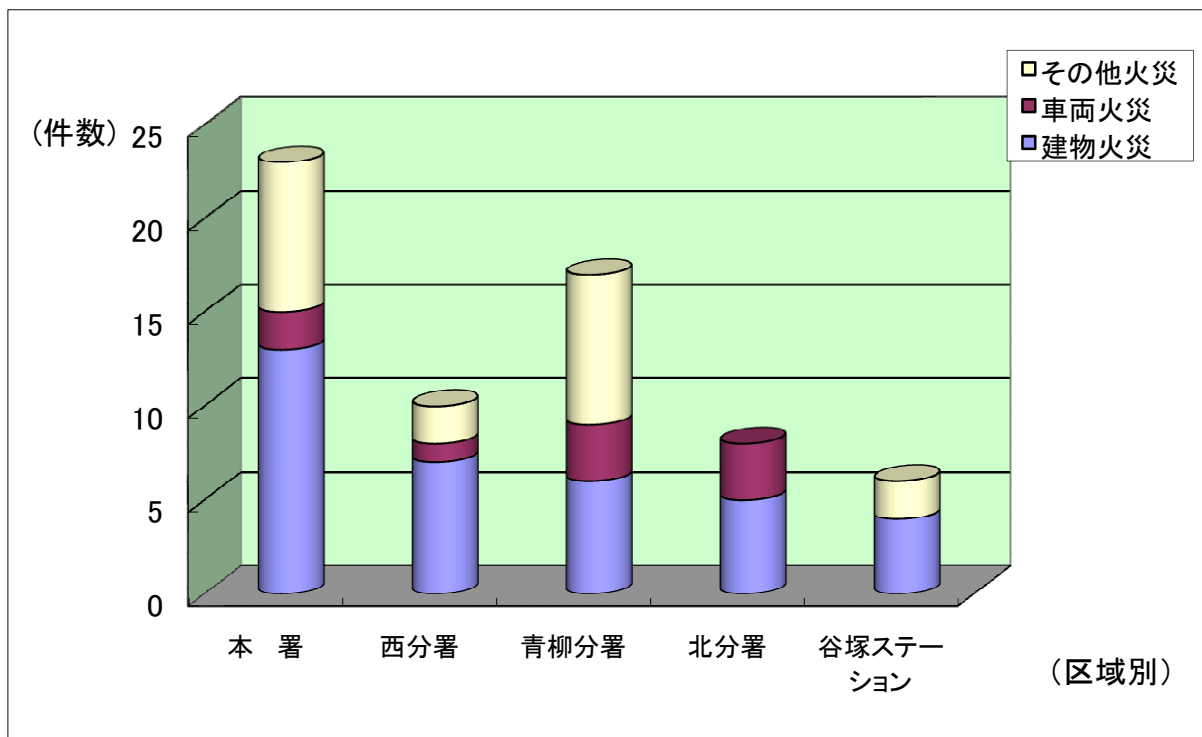
町名	平成24年	平成23年	町名	平成24年	平成23年	町名	平成24年	平成23年
青柳	3	9	神明	1	1	原町		
青柳町	1		住吉		1	氷川町	6	5
旭町	2	1	清門町	1	1	弁天	3	3
遊馬町			瀬崎	5	3	松江		2
稲荷	2	2	草加	3	2	松原		1
柿木町	6	8	高砂	2	3	谷塚	1	
学園町			中央	1	1	谷塚上町	2	2
北谷	1		長栄町	3	1	谷塚仲町		2
北谷町			手代町	1	3	谷塚町	1	5
金明町	1	5	苗塚町	1		柳島町	1	2
小山		2	中根	2		八幡町	2	5
栄町	1	4	西町	1	2	吉町	8	12
新栄町		6	新里町	1	2	両新田西町		
新善町	1	3	花栗		4	両新田東町		
<b>合計</b>							<b>64</b>	<b>103</b>



## 担当区域別件数

	建 物 火 災	車 両 火 災	そ の 他 火 災	合 計
本 署	13	2	8	23
西 分 署	7	1	2	10
青 柳 分 署	6	3	8	17
北 分 署	5	3		8
谷 塚 ス テ ー シ ョ ン	4		2	6
合 計	35	9	20	64

※ 谷塚ステーションは平成24年4月1日開所のため、4月1日からの計上となります。



# 原因別火災発生状況 No.1

平成24年中の火災発生状況を、出火原因別に見ると、次のとおりです。

原因別火災発生状況の第1位は、放火（疑いを含む）が最も多い21件で、前年と比べ32件減少し、全体の33%を占めております。

次にこんろの6件、たばこの5件でしたが、こんろが3件、たばこが2件、それぞれ前年より減少となりました。

放火（疑いを含む）は、全国統計の出火原因の第1位で、草加市においても、過去10年間第1位となっています。

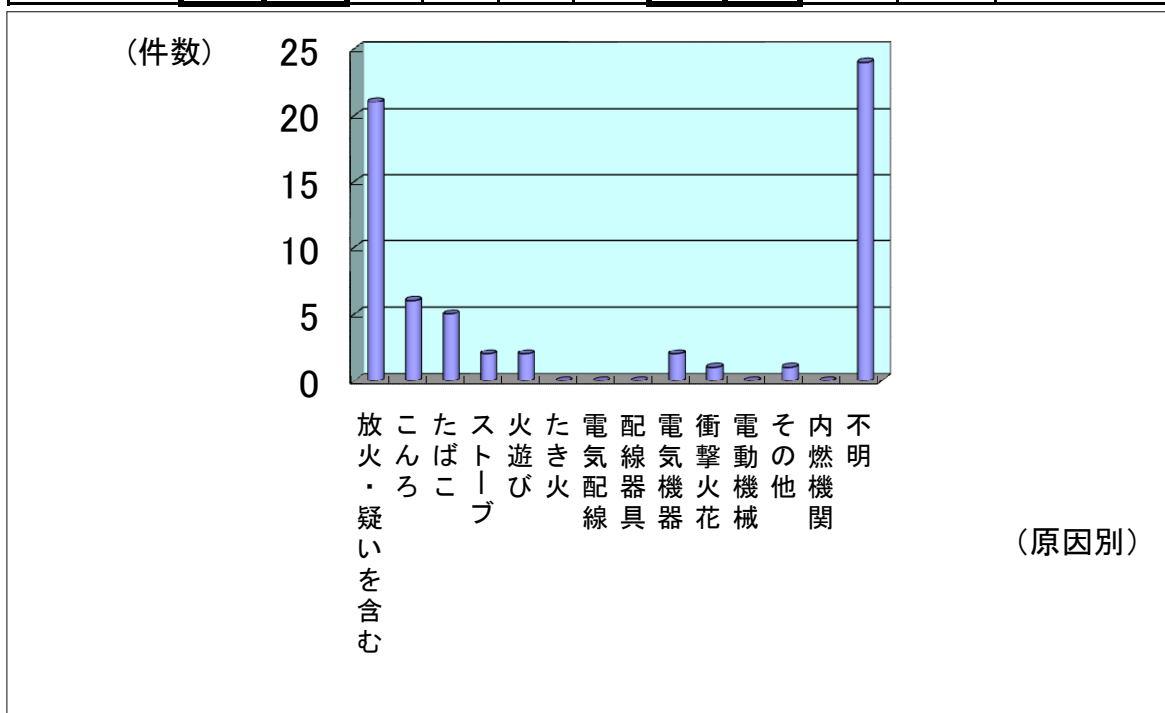




# 原因別火災発生状況 No.2

※ 焼損程度・焼損床面積・焼損表面積・建物損害額は、火元のみ

	合計	建物火災	焼損程度				車両火災	その他火災	焼損床面積 m <sup>2</sup>	焼損表面積 m <sup>2</sup>	建物損害額 (千円)
			全焼	半焼	部分焼	ぼや					
放火・疑いを含む	21	7			2	5	3	11	30	10	978
こんろ	6	6			3	3			5	1	265
たばこ	5	4	1	1	1	1		1	80		6,840
ストーブ	2	2	1			1			137		11,247
火遊び	2	1				1		1			
たき火	0										
電気配線	0										
配線器具	0										
電気機器	2	2			1	1				2	78
衝撃火花	1						1				
電動機械	0										
その他	1						1				
内燃機関	0										
不明	24	13	5	2	4	2	4	7	835	2	45,871
合計	64	35	7	3	11	14	9	20	1,087	17	65,279



# 近年の推移から見る平成24年の特徴

## 1 火災件数について

火災発生件数は、社会の諸状況によって大きく変化します。

特に放火等は出火の増減に大きく影響します。

平成24年中の火災総発生件数は、前年と比較し39件減少し、過去10年間で最も少ない64件でした。

放火等（疑いを含む）による出火は21件で、前年より32件減少しましたが、原因別では、23年連続でワースト1になっています。

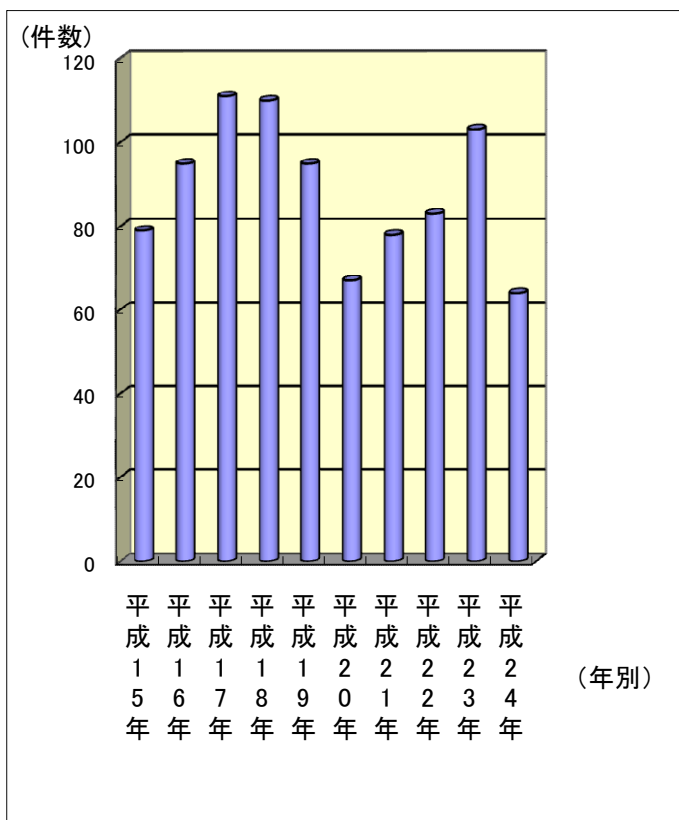
また、車両火災については前年より3件増加し、その他火災については26件減少しました。

## 2 出火率について

出火率とは、年内の火災総発生件数を草加市の人口1万人当たりで表したものです。

平成24年中は、2.6ポイントと前年より1.6ポイント減少しました。

### 火災件数の推移



### 出火率の推移

	火災件数	人口	出火率
平成15年	79	235,494	3.4
平成16年	95	237,535	4.0
平成17年	111	238,314	4.7
平成18年	110	238,951	4.6
平成19年	95	239,896	3.9
平成20年	67	241,279	2.7
平成21年	78	242,175	3.2
平成22年	83	243,235	3.4
平成23年	103	244,401	4.2
平成24年	64	243,951	2.6
平均	88	240,523	3.7

※ 出火率は件数／人口×10,000

平成24年は平成24年12月1日現在の人口

## 近年の火災原因の推移について

平成24年中に発生した火災総件数64件の原因内訳を見ると、放火（疑いを含む）によるものが21件発生し、前年と比較し32件減少となっています。

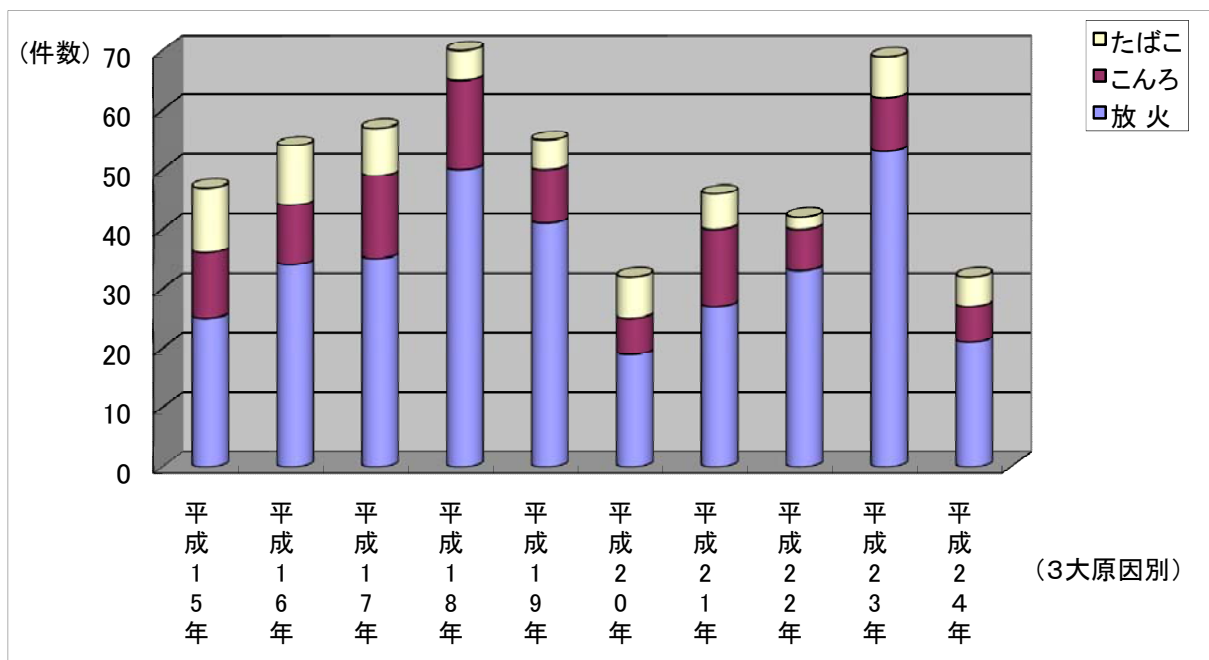
次に多く発生しているのがこんろの6件、次いでたばこの5件で、いずれも前年より減少しました。

また、社会環境の進展や変化に伴い、火災の原因も多様化し、火災原因の究明もますます複雑かつ困難になっているのが現状であります。

### 主な火災原因の推移

	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	合計
放火	25	34	35	50	41	19	27	33	53	21	338
こんろ	11	10	14	15	9	6	13	7	9	6	100
たばこ	11	10	8	5	5	7	6	2	7	5	66
合計	47	54	57	70	55	32	46	42	69	32	504
年間火災	79	95	111	110	95	67	78	83	103	64	885
割合	59.5%	56.8%	51.4%	63.6%	57.9%	47.8%	59.0%	50.6%	67.0%	50.0%	56.9%

※ 放火は、疑いを含む



## 過去10年間の火災概況

区分 年別	火災件数(件)				焼損棟数(棟)					焼損面積(m <sup>2</sup> )		損害見積額 (千円)	死傷者		り災世帯(世帯)				り災人員 (人)
	建物火災	車両火災	その他火災	合計	全焼	半焼	部分焼	ぼや	合計	床面積	表面積		死者	負傷者	全損	半損	小損	合計	
平成15年	51	8	20	79	7	5	9	30	51	1,482	82	232,494	2	12	9	4	52	65	135
平成16年	49	10	36	95	2	3	33	22	60	556	53	80,524	1	11	4	4	38	46	122
平成17年	50	12	49	111	11	7	27	21	66	7,373	91	1,077,177	5	23	3	5	27	35	117
平成18年	56	9	45	110	6	2	18	30	56	988	25	37,516	2	26	4	2	29	35	140
平成19年	59	9	27	95	5	10	23	30	68	1,484	81	87,244	6	23	14	7	38	59	161
平成20年	38	3	26	67	8	3	22	24	57	1,859	144	104,794	1	13	16	4	38	58	116
平成21年	48	10	20	78	3	1	21	28	53	448	24	45,025	1	10	8	1	55	64	130
平成22年	32	11	40	83	5	3	18	15	41	678	8	21,215	0	10	5	2	27	34	73
平成23年	51	6	46	103	6	2	24	30	62	1,069	95	54,547	3	12	13	0	35	48	124
平成24年	35	9	20	64	10	4	19	18	51	1,128	137	83,895	1	7	10	6	26	42	103

# 緊急消防援助隊の登録状況

## 緊急消防援助隊登録部隊数 《全国》

(平成24年6月1日現在)

指揮支援部隊	38隊	航空部隊	73隊
都道府県隊指揮隊	109隊	水上部隊	19隊
消火部隊	1,615隊	特殊災害部隊	277隊
救助部隊	403隊	特殊装備部隊	345隊
救急部隊	1,028隊	全国 783消防本部	
後方支援部隊	641隊	4,431隊 (重複除く)	

## 緊急消防援助隊登録隊数 《草加市》

消火部隊	1隊	5人
救助部隊	1隊	5人
救急部隊	2隊	6人
特殊災害部隊	1隊	5人
計	5隊	21人

## 緊急消防援助隊の出動状況【平成16年4月1日法制化以降】

- ・平成16年 7月13日 新潟・福島豪雨
- ・平成16年 7月18日 福井豪雨
- ・平成16年10月21日 台風23号兵庫県豊岡市水害
- ・平成16年10月23日 新潟県中越地震(震度7)
- ・平成17年 3月20日 福岡県西方沖を震源とする地震災害(震度6)
- ・平成17年 4月25日 JR西日本福知山線列車事故
- ・平成19年 1月30日 奈良県吉野郡上北山村土砂崩れ車両埋没事故
- ・平成19年 3月25日 能登半島地震(震度6強)
- ・平成19年 4月15日 三重県中部を震源とする地震(震度5強)
- ・平成19年 7月16日 新潟県中越沖地震(震度6強)
- ・平成20年 6月14日 岩手・宮城内陸地震(震度6強)
- ・平成20年 7月24日 岩手県沖岸北部を震源とする地震(震度6強)
- ・平成21年 8月11日 駿河湾を震源とする地震(震度6弱)
- ・平成23年 3月11日 東日本大震災(震度7)

# 救急統計



救急ステーション（平成24年4月1日開所）

# 救急業務の実施状況

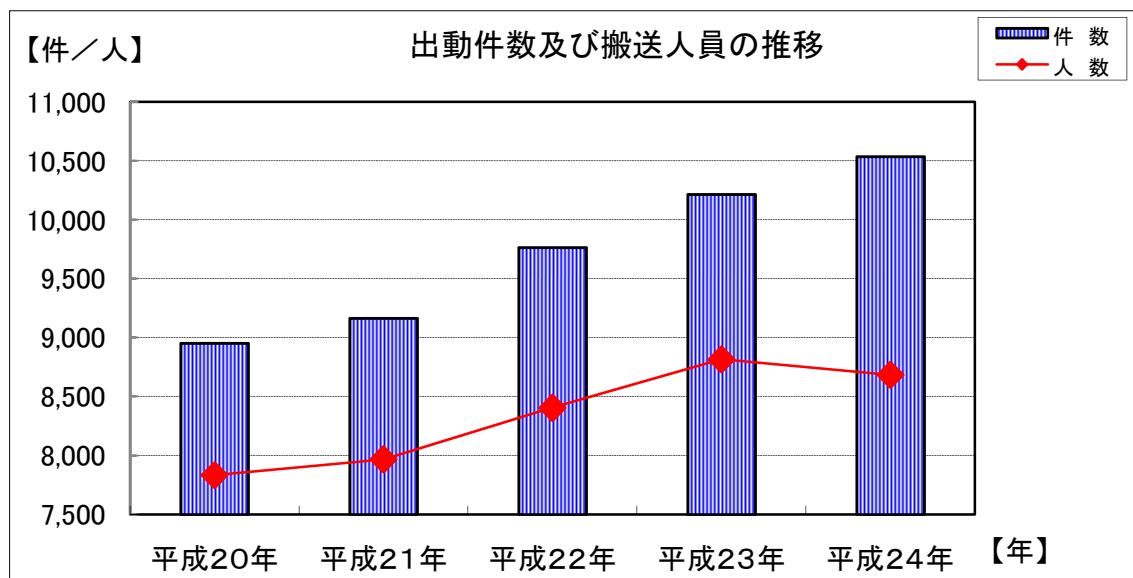
平成24年中の救急出動件数は、10,537件で前年と比較すると321件(3.1%)の増加となりました。また、搬送人員は、8,684人で前年と比較すると132人(-1.5%)の減少となりました。

1日の平均出動は、約29件となり、市民の約28人に1人が救急車により搬送されたこととなります。



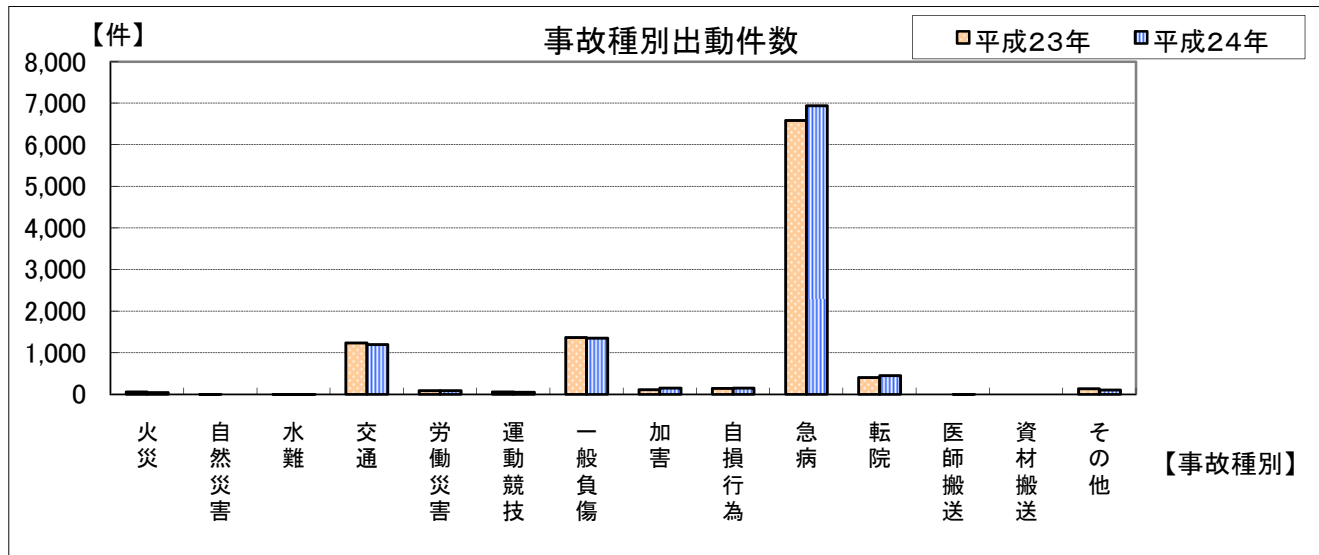
救急出動件数及び搬送人員の推移

	救急出動件数		搬送人員	
	件数	対前年比	人数	対前年比
平成20年	8,952	△663(-6.9%)	7,833	△699(-8.2%)
平成21年	9,165	213(2.4%)	7,967	134(1.7%)
平成22年	9,765	600(6.5%)	8,405	438(5.5%)
平成23年	10,216	451(4.6%)	8,816	411(4.8%)
平成24年	10,537	321(3.1%)	8,684	△132(-1.5%)



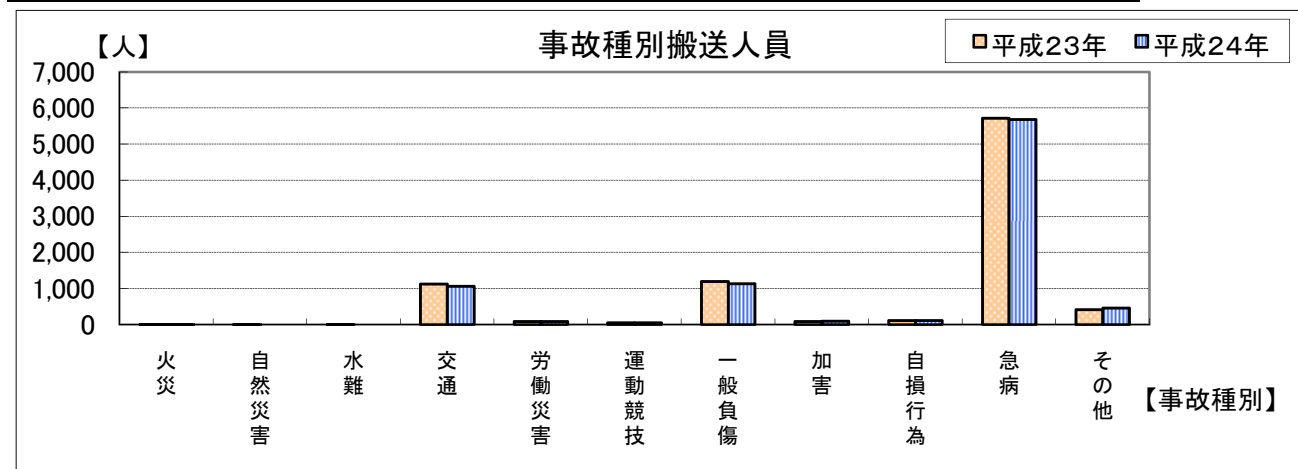
### 事故種別出動件数

	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院	医師搬送	資材搬送	その他	合計
平成23年	60	13	1	1,235	90	58	1,371	116	146	6,589	404	0	0	133	10,216
平成24年	44	0	1	1,202	88	49	1,351	155	148	6,942	452	1	0	104	10,537
前年比	△ 16	△ 13	0	△ 33	△ 2	△ 9	△ 20	39	2	353	48	1	0	△ 29	321



### 事故種別搬送人員

	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	合計
平成23年	15	11	1	1,123	85	54	1,195	86	111	5,717	418	8,816
平成24年	7	0	0	1,062	86	47	1,135	96	109	5,682	460	8,684
前年比	△ 8	△ 11	△ 1	△ 61	1	△ 7	△ 60	10	△ 2	△ 35	42	△ 132



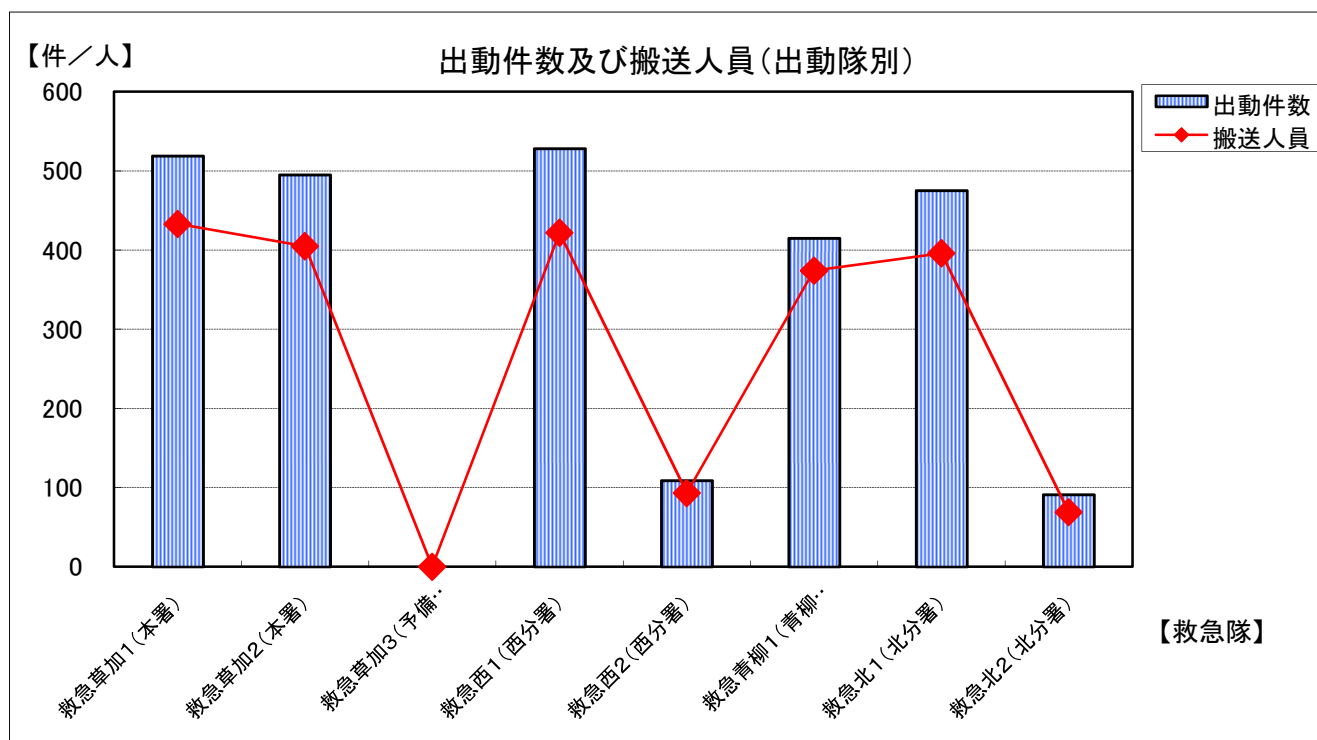


## 町名別救急出動件数

町名	件数	町名	件数	町名	件数
谷塚町	427	草加	323	住吉	150
氷川町	649	西町	310	谷塚上町	154
瀬崎	619	花栗	299	中根	191
松原	558	弁天	256	神明	104
青柳	660	新栄町	285	苗塚町	79
青柳町	5	松江	187	小山	87
旭町	371	中央	150	谷塚仲町	79
高砂	371	長栄町	193	原町	96
栄町	442	新里町	213	両新田西町	84
八幡町	361	柳島町	200	両新田東町	46
北谷	321	清門町	148	学園町	14
北谷町	0	遊馬町	162	谷塚	288
稻荷	329	柿木町	236		
吉町	290	新善町	213		
金明町	355	手代町	153		
東京都	3	川口市	1	越谷市	2
八潮市	28	外環道	45	その他	0
				合計	10,537

## 救急隊別出動件数・搬送人員No.1 (1/1~3/31)

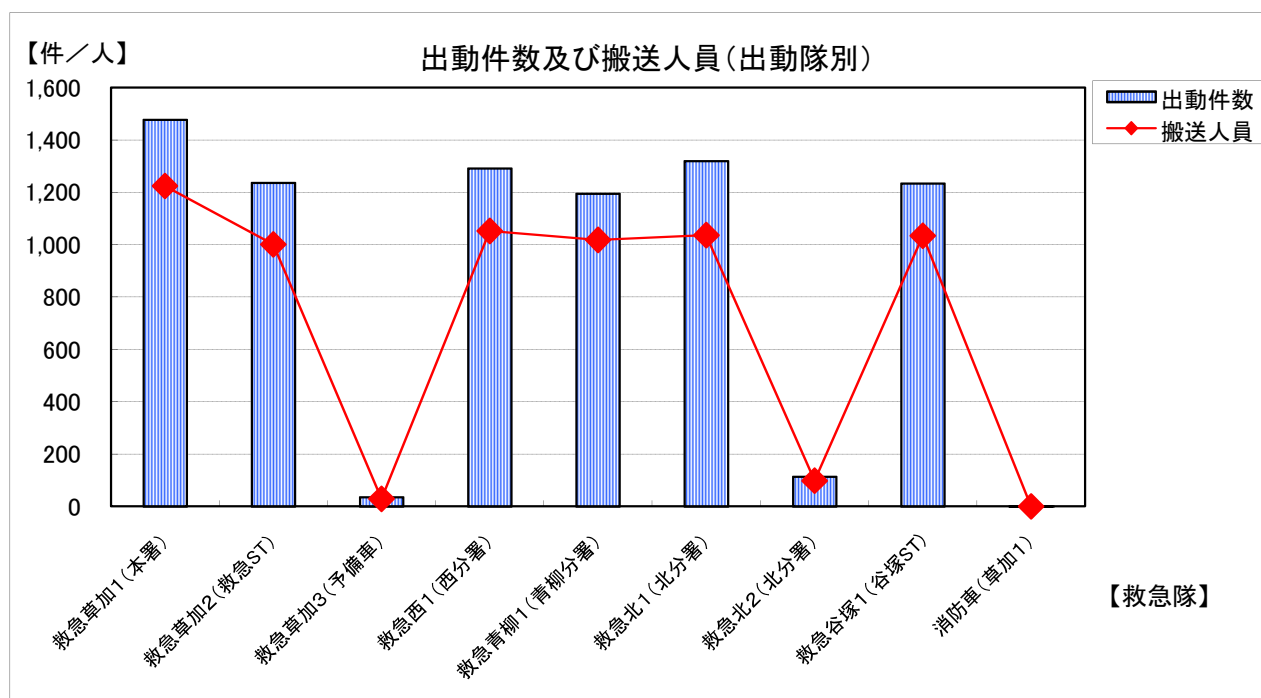
	出動件数	搬送人員
救急草加1(本署)	519	433
救急草加2(本署)	495	405
救急草加3(予備車)	0	0
救急西1(西分署)	528	422
救急西2(西分署)	109	93
救急青柳1(青柳分署)	415	374
救急北1(北分署)	475	396
救急北2(北分署)	91	69
計	2,632	2,192



## 救急隊別出動件数・搬送人員No.2(4/1~12/31)

	出動件数	搬送人員
救急草加1(本署)	1,477	1,224
救急草加2(救急ST)	1,237	1,001
救急草加3(予備車)	36	29
救急西1(西分署)	1,291	1,052
救急青柳1(青柳分署)	1,195	1,018
救急北1(北分署)	1,320	1,036
救急北2(北分署)	114	98
救急谷塚1(谷塚ST)	1,234	1,034
消防車(草加1)	1	0
計	7,905	6,492

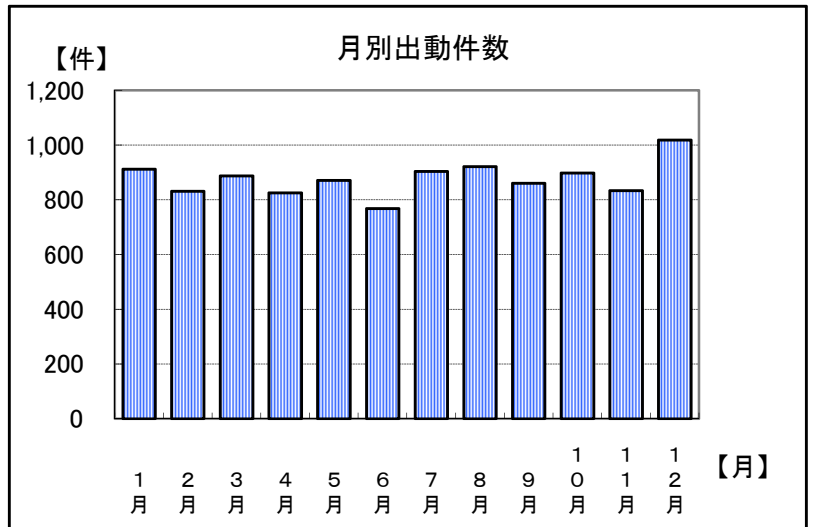
※ 救急ステーション、谷塚ステーションは平成24年4月1日開所



# 月・曜日・時間別出動件数

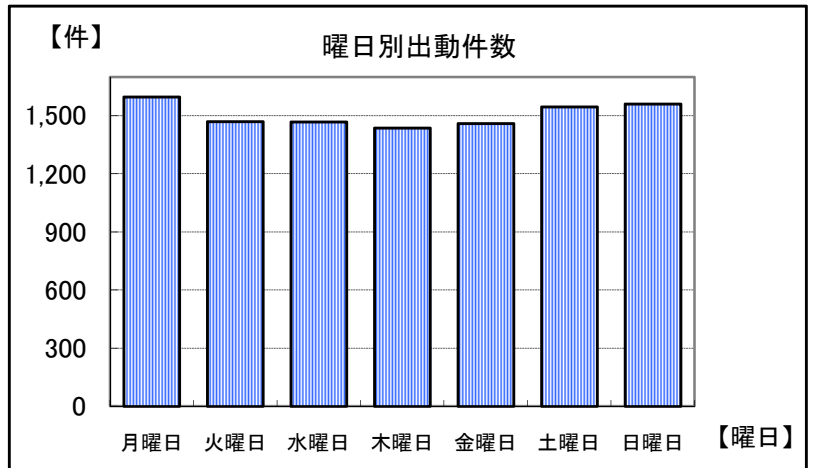
## 月別出動件数

月別	件数
1月	912
2月	832
3月	888
4月	826
5月	872
6月	769
7月	904
8月	922
9月	861
10月	898
11月	834
12月	1019



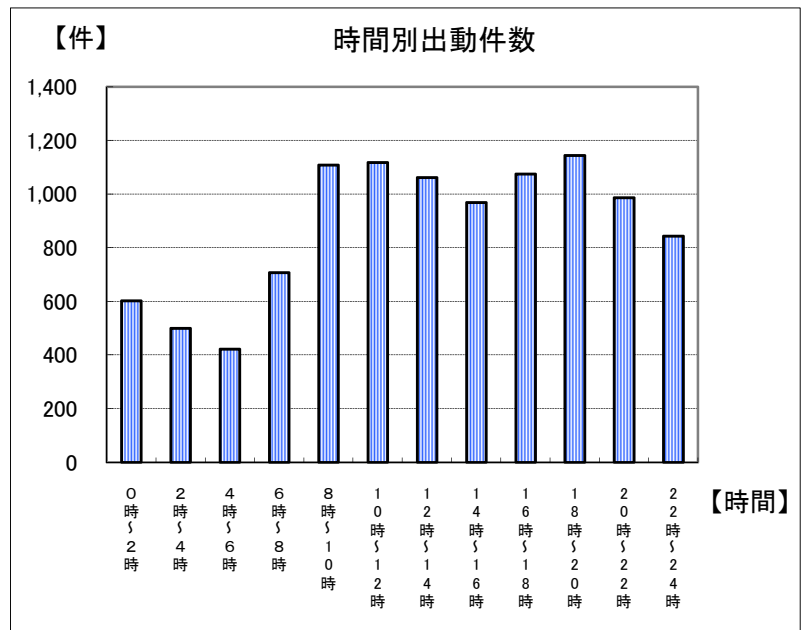
## 曜日別出動件数

曜日別	件数
月曜日	1,597
火曜日	1,470
水曜日	1,468
木曜日	1,437
金曜日	1,460
土曜日	1,545
日曜日	1,560



## 時間別出動件数

時間別	件数
0時～2時	602
2時～4時	500
4時～6時	422
6時～8時	707
8時～10時	1,108
10時～12時	1,118
12時～14時	1,062
14時～16時	969
16時～18時	1,075
18時～20時	1,144
20時～22時	987
22時～24時	843



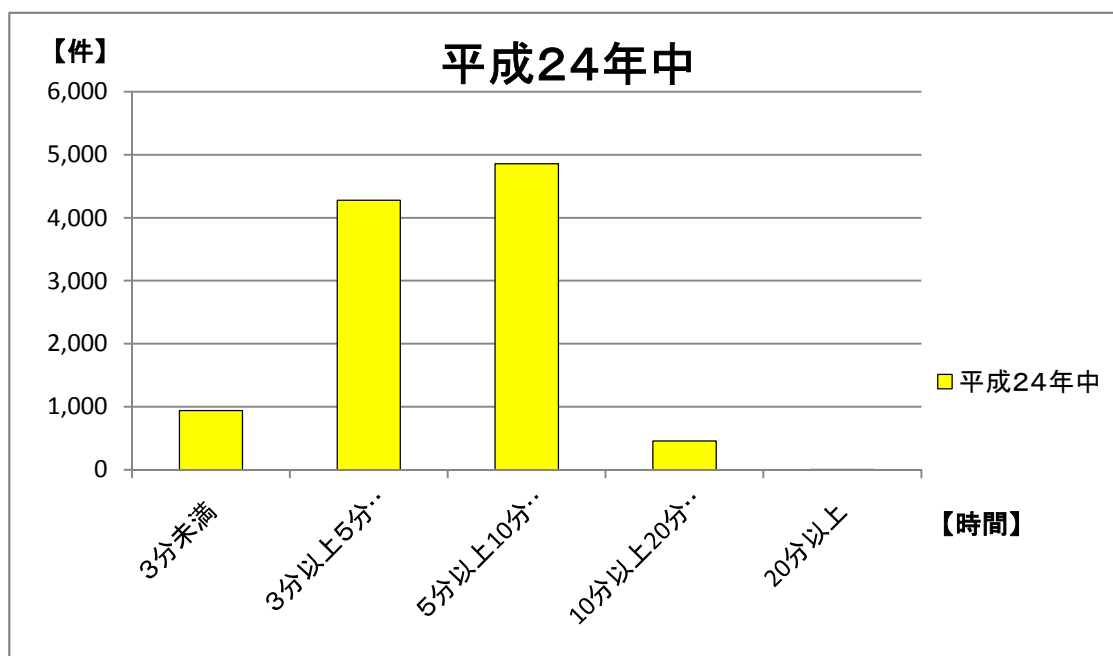
## 現場到着所要時間別出動件数(出場～現場到着)

救急隊が現場到着に要した平均現場到着所要時間は、5.4分です。  
(平成23年の平均5.2分)

※ 現場到着所要時間は、出場から現場に到着するまでに要した時間です。

現場到着所要時間別出動件数

到着時間	平成24年中
3分未満	940
3分以上5分未満	4,280
5分以上10分未満	4,857
10分以上20分未満	455
20分以上	5



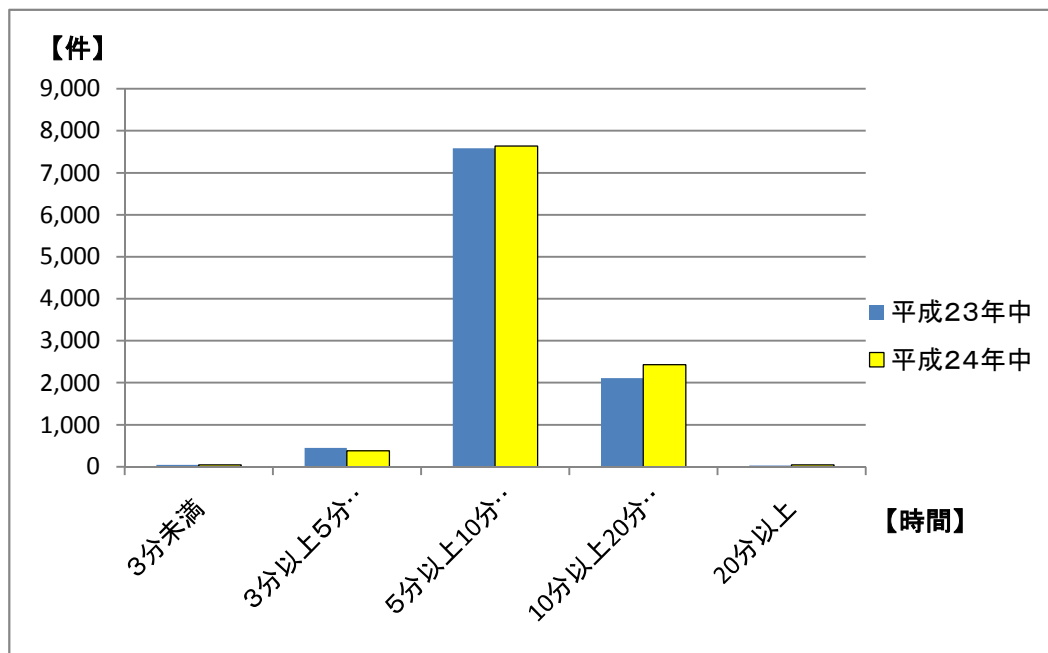
## 現場到着所要時間別出動件数(覚知～現場到着)

救急隊が現場到着に要した平均現場到着所要時間は、8.7分です。

※ 現場到着所要時間は、救急事故の覚知から現場に到着するまでに要した時間です。

現場到着所要時間別出動件数

到着時間	平成23年中	平成24年中
3分未満	45	47
3分以上5分未満	449	380
5分以上10分未満	7,582	7,639
10分以上20分未満	2,108	2,429
20分以上	32	42

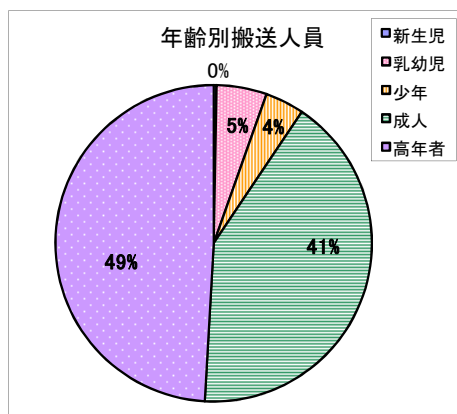


## 年齢別傷病程度別搬送人員 No. 1

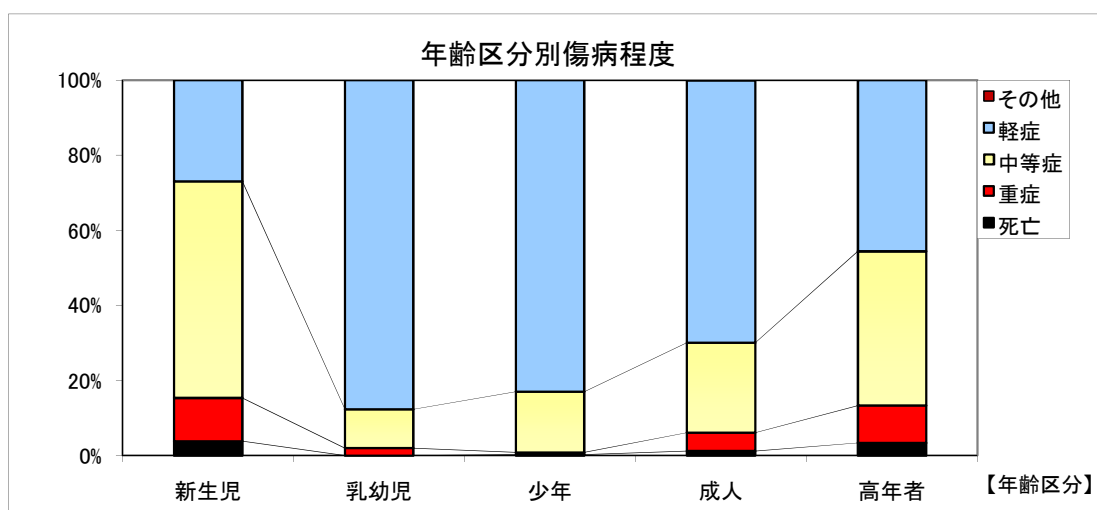
医療機関に搬送した8,684人のうち、成人が占める割合は約41% (3,603人)、高年者は約49% (4,264人)となっています。

	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
新生児	1	3	15	7	0	26
乳幼児	0	9	46	390	0	445
少年	1	2	56	287	0	346
成人	45	176	863	2,517	2	3,603
高年者	145	425	1,751	1,943	0	4,264
合計	192	615	2,731	5,144	2	8,684

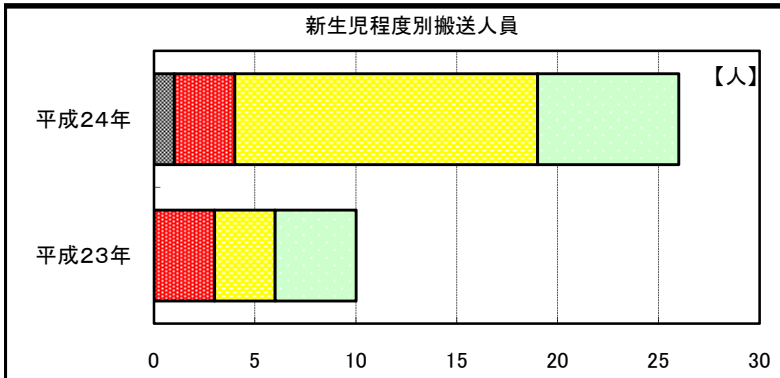
新生児・生後28日以内  
 乳幼児・生後28日以上～満7歳未満  
 少年・満7歳以上～満18歳未満  
 成人・満18歳以上～満65歳未満  
 高年者・満65歳以上



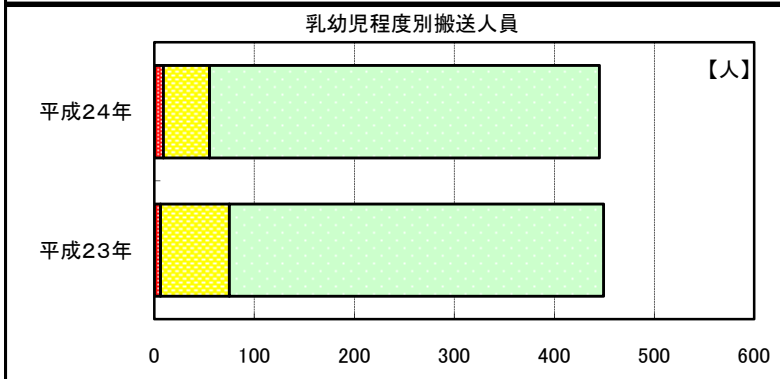
死亡—初診時において、死亡が確認されたもの  
 重症—傷病の程度が、3週間以上の入院加療が必要なもの  
 中等症—傷病の程度が、入院を要するもので重症に至らないもの  
 軽症—傷病の程度が、通院加療のもの



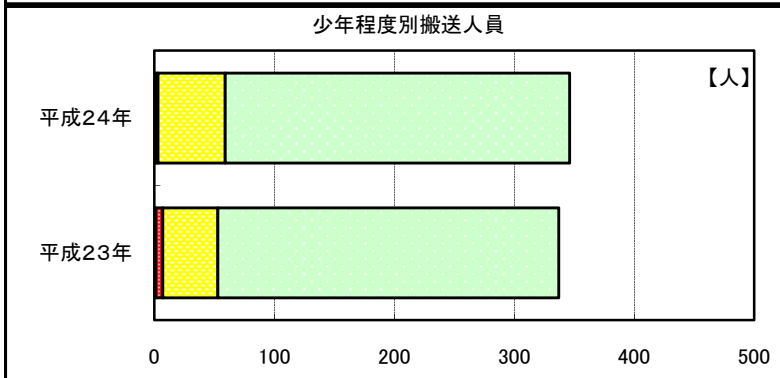
# 年齢別傷病程度別搬送人員 No.2



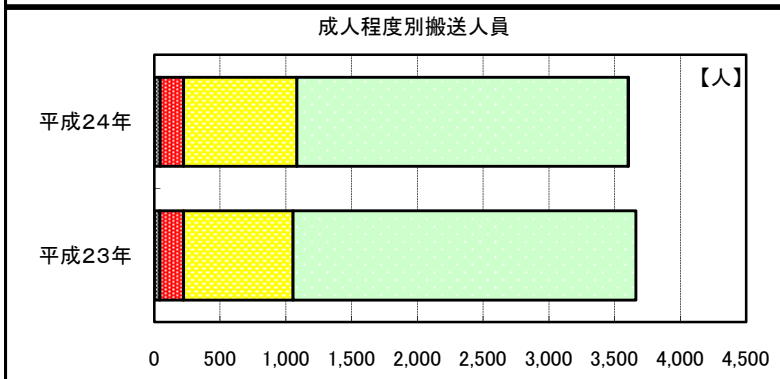
新生児	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成24年	1	3	15	7	0
対前年比	1	0	12	3	0



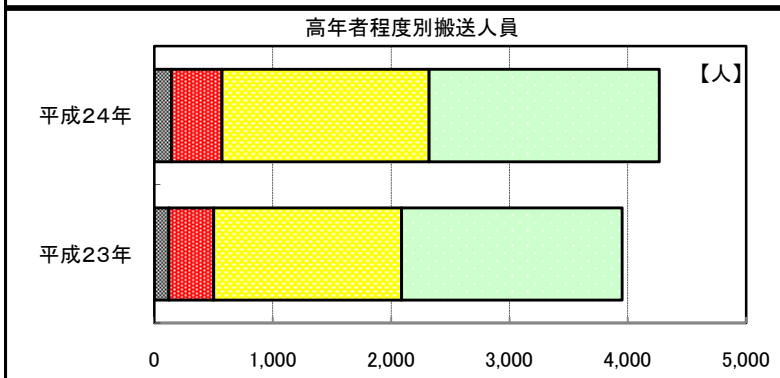
乳幼児	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成24年	0	9	46	390	0
対前年比	0	3	△ 23	16	0



少年	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成24年	1	2	56	287	0
対前年比	0	△ 4	10	3	0



成人	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成24年	45	176	863	2,517	2
対前年比	3	△ 5	32	△ 88	2



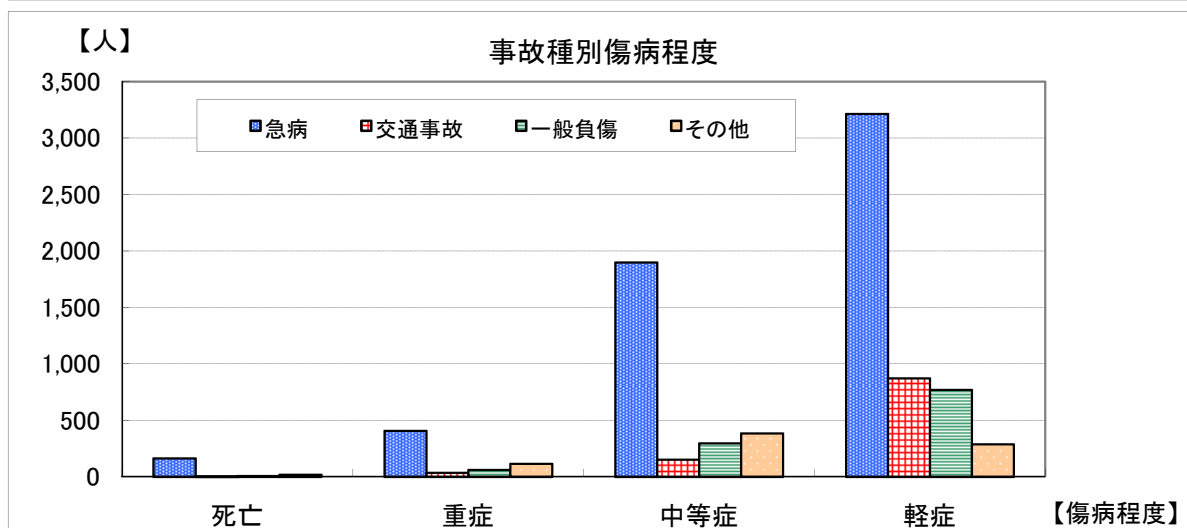
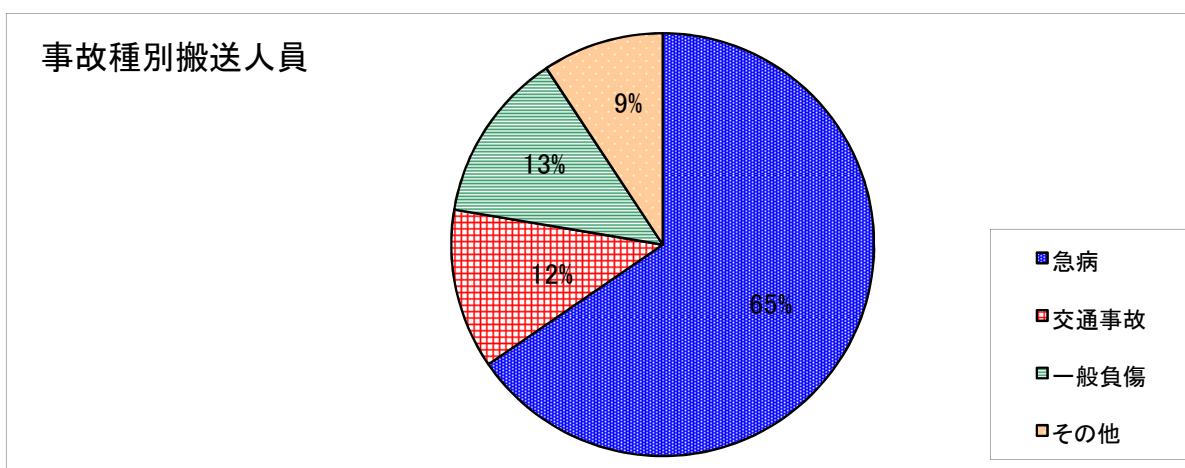
高齢者	死亡	重症	中等症	軽症	その他
平成24年	145	425	1,751	1,943	0
対前年比	24	45	164	81	0



## 事故種別傷病程度別搬送人員

「急病」は、5,682人と全体の約65%を占めています。  
 また、全体の約59%（5,144人）が入院を要しない軽症の傷病者でした。

	死亡	重症	中等症	軽症	その他	合計
急病	162	406	1,899	3,213	2	5,682
交通事故	5	34	152	871	0	1,062
一般負傷	7	60	297	771	0	1,135
その他	18	115	383	289	0	805
合計	192	615	2,731	5,144	2	8,684



## 発生場所別搬送人員状況

\	住宅	公衆出入場所	仕事場	道路	その他	計
急病	4,547	789	134	201	11	5,682
交通	37	21	6	995	3	1,062
一般負傷	702	206	11	198	18	1,135
その他	167	511	77	41	9	805
計	5,453	1,527	228	1,435	41	8,684

## 東京外環自動車道救急出動状況

種別	出動件数		搬送人員			
	件数	不搬送	軽症	中等症	重症	合計
交通	43	7	34	6	0	40
急病	1	0	0	1	0	1
その他	1	1	0	0	0	0
合計	45	8	34	7	0	41

※ 上記数値は、外環自動車道に出動した総件数で、1事故に複数台の救急隊が対応しています。

## 市民に対する救命処置の講習会

傷病者に対する救命効果の向上のためには、現場に居合わせた人(バイスタンダー)による応急手当が重要であることから、草加市消防本部では、市民に対する応急手当の普及啓発活動を積極的に推進する中、救急要請に対して、迅速・的確に対応し病院前救護の充実を図るため、自動体外式除細動器(AED)の普及及び市民等を対象とした応急手当講習(上級救命講習・普通救命講習Ⅰ・Ⅱ)を実施し、市民による早期の救命処置及び救命リレーの強化による、救命率の向上を図っています。

応急手当講習の内容は、全体が簡素化され、どなたでも簡単に実施できる内容になっております。

普通救命講習Ⅰは、心肺蘇生法(人工呼吸・胸骨圧迫)及び自動体外式除細動器(AED)の取扱いを中心とした3時間の講習会、普通救命講習Ⅱは、業務の内容や活動領域の性格から一定の頻度で心停止者に対し応急の対応をすることが期待・想定される方が対象となります。(4時間)

また上級救命講習は、心肺蘇生法に加え傷病者管理法・外傷の手当て要領・搬送法等が加わった(8時間)の講習も実施しており、それぞれの講習修了者に修了証を交付しています。

### 普通救命講習(Ⅰ・Ⅱ)修了者数及び実施回数

	普通救命講習修了者数	普通救命講習実施回数	修了者総数
平成20年	1,584	82	14,784
平成21年	2,026	111	16,810
平成22年	1,840	103	18,650
平成23年	1,554	84	20,204
平成24年	1,652	86	21,856

### 上級救命講習修了者数及び実施回数

	上級救命講習修了者数	上級救命講習実施回数	修了者総数
平成20年	38	2	230
平成21年	30	2	260
平成22年	44	2	304
平成23年	40	2	344
平成24年	38	2	382

# 心肺蘇生法が新しく変更されました！ (草加市では平成24年3月より)

草加市では、市民の尊い命を守るために消防署・各分署において、定期的に普通救命講習や上級救命講習を開催しております。

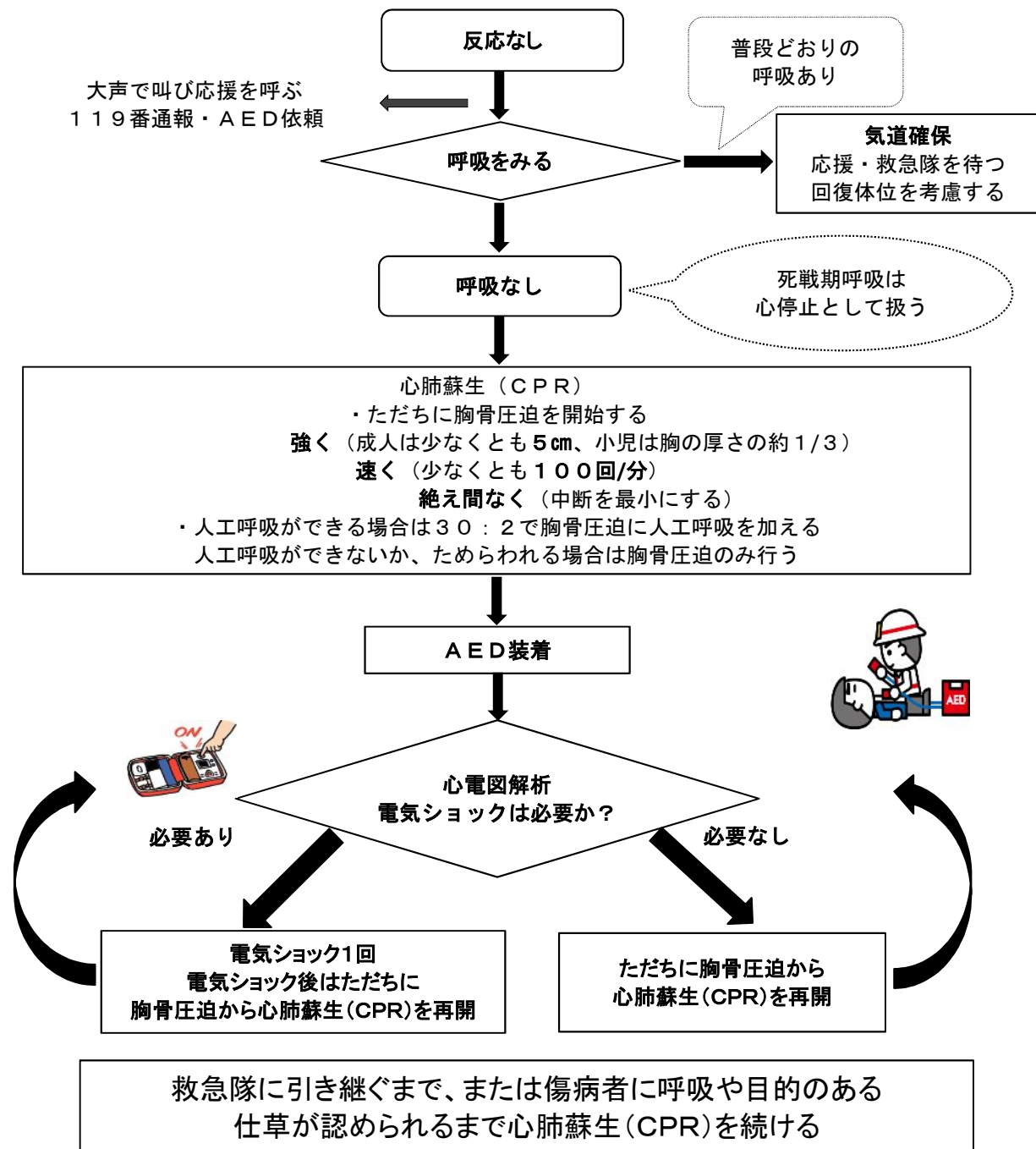
毎年、市民の皆様のご理解を得て、心肺蘇生法の訓練やAEDの取り扱い訓練を実施しており、平成23年12月末には、普通・上級救命講習の受講者が延べ2万人を超えております。

心肺蘇生法は、日常練習する機会が少ないため、心肺蘇生法の訓練を受けていても、時間の経過により忘れてしまうものです。

また、約5年に一度のペースで新たな心肺蘇生法に見直しをされていきますので、定期的に救命講習などに参加していただき、いざという時に備えておくことが、大切なご家族やご友人などの命を助けるためには大事なことです。

ぜひ、定期的に救命講習をご受講してみたいはいかがでしょうか。

## 市民が行う心肺蘇生法の手順（一次救命処置）



※ 心肺蘇生法は、新しく変更されていきますが、従来の心肺蘇生法は、間違いではありません。

お問い合わせは、消防署・各分署へお問い合わせください。

・消防署 救急係 048-924-2114 ・西分署 048-925-3251 ・青柳分署 048-931-3973

・北分署 048-944-7301 ・谷塚ステーション 048-929-9977

# 救 助 統 計

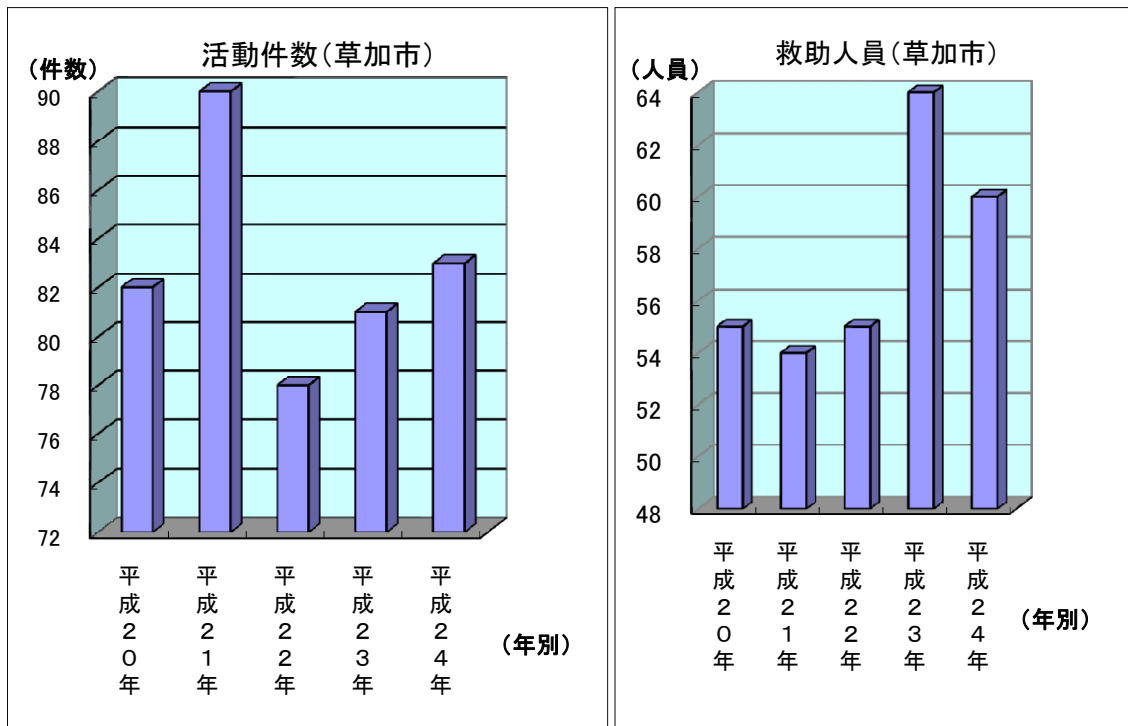


# 救助活動状況の概要

近年、消防機関が行う人命救助活動は、東日本大震災などの大規模自然災害に加え、高速バスによる交通事故の頻発、岡山県倉敷市の海底トンネル崩落事故、新潟県南魚沼市のトンネル爆発事故などの複雑多様化した大規模な救助事象が全国的に増加しており、本市における救助活動件数も前年より2件増加しました。

救助活動件数及び救助人員の推移

	救助活動件数			救助人員		
	草加市	埼玉県	全国	草加市	埼玉県	全国
平成20年	82	2,397	53,295	55	2,397	54,231
平成21年	90	2,253	53,114	54	1,528	54,991
平成22年	78	2,357	55,031	55	1,684	58,682
平成23年	81	2,574	57,641	64	1,859	63,618
平成24年	83	未集計	未集計	60	未集計	未集計



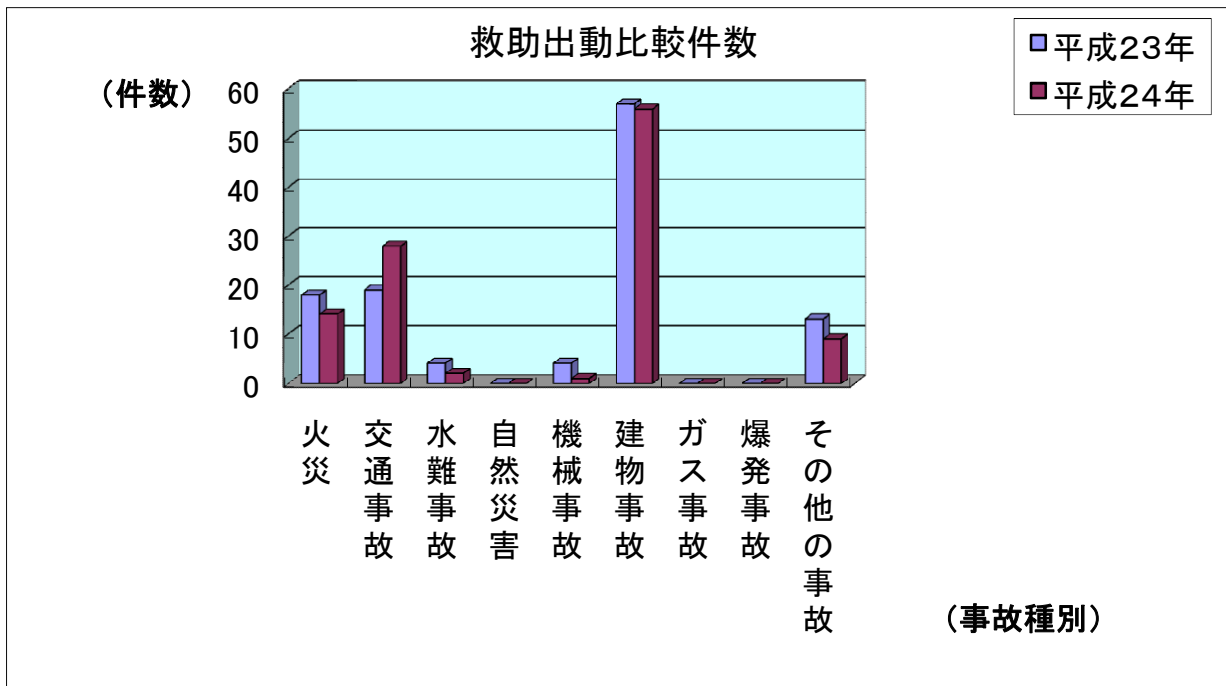
※ 消防機関の行う救助業務とは、現に発生している災害等に起因する障害等から、要救助者を安全に救助・救命することを目的として行う一連の行動をいいます。

# 事故種別救助出動状況

当市平成24年の救助出動は、前年より5件減少し、うち建物事故の割合が全体の51%となりました。

救 助 出 動 件 数

	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物事故	ガス事故	爆発事故	その他の事故	合計
平成23年	18	19	4	0	4	57	0	0	13	115
平成24年	14	28	2	0	1	56	0	0	9	110



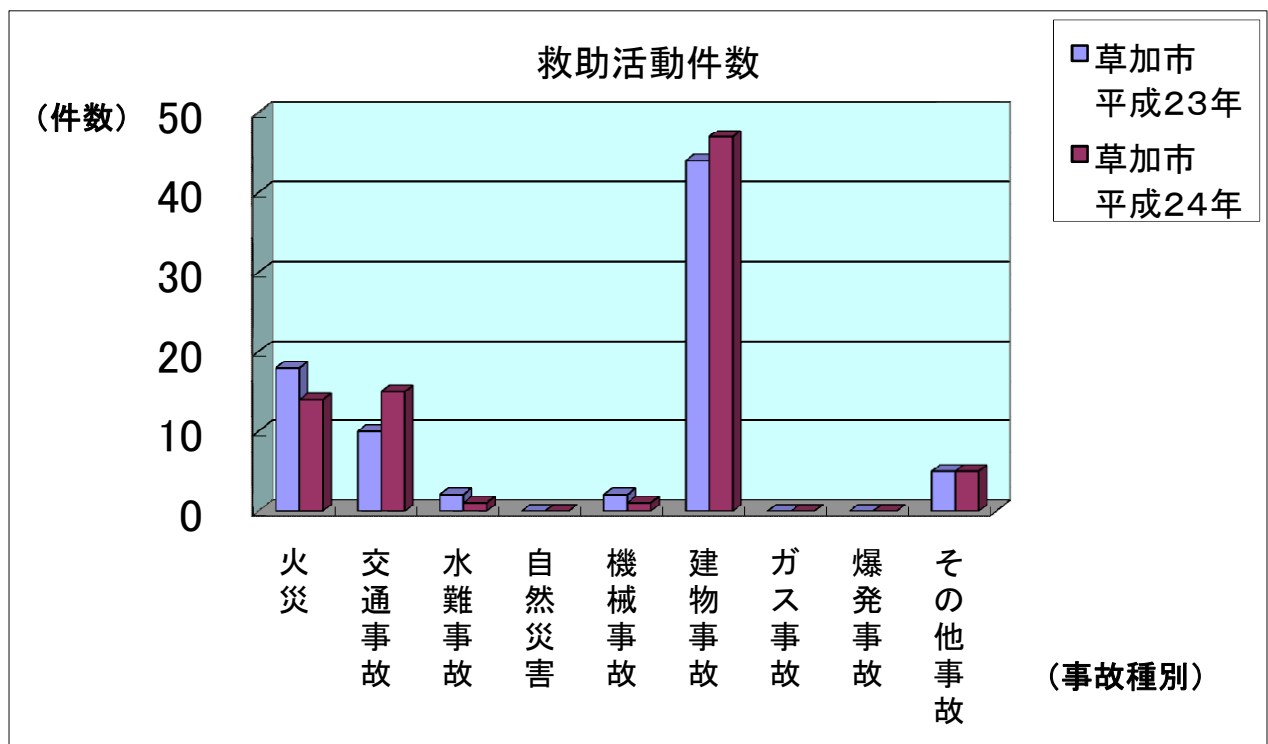
# 事故種別救助活動状況

救助活動件数とは、消防機関（主に救助隊）が各種事象にて救助活動を行った件数であり、平成24年においては出動件数の約76%を占めています。

その中でも、ここ数年の傾向として火災及び建物事故の救助活動が多く全体の約75%を占めています。

## 救助活動件数

	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物事故	ガス事故	爆発事故	その他事故	合計
草加市 平成23年	18	10	2	0	2	44	0	0	5	81
草加市 平成24年	14	15	1	0	1	47	0	0	5	83
県内 平成22年	775	1,001	149	27	102	720	52	0	920	3,746
県内 平成23年	775	540	118	16	65	558	41	0	461	2,574
全国 平成22年	5,530	16,585	2,661	279	999	19,232	650	10	9,085	55,031
全国 平成23年	5,682	16,194	2,648	1,244	1,165	20,783	439	19	9,467	57,641



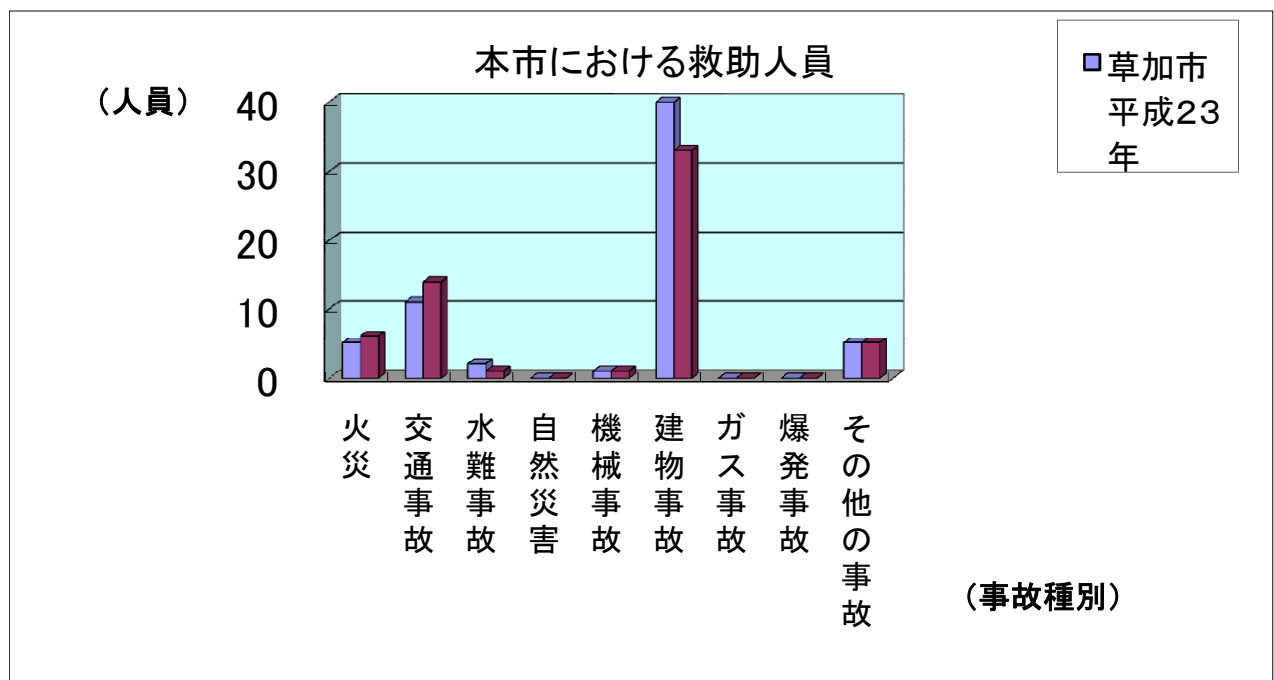


# 事故種別救助人員

救助人員とは、消防機関（主に救助隊）が救助活動により救出した人員をいいます。事故種別にあつては、交通事故と建物事故で全体の約65%を占めています。

本市等における救助人員

	火災	交通事故	水難事故	自然災害	機械事故	建物事故	ガス事故	爆発事故	その他の事故	合計
草加市 平成23年	5	11	2	0	1	40	0	0	5	64
草加市 平成24年	6	14	1	0	1	33	0	0	5	60
県内 平成22年	112	624	70	5	42	400	37	0	394	1,684
県内 平成23年	124	592	87	34	71	475	38	0	438	1,859
全国 平成22年	2,051	23,349	3,156	502	1,263	18,220	632	11	9,498	58,682
全国 平成23年	1,995	21,578	2,903	6,472	1,391	19,546	367	25	9,341	63,618



# 平成24年中の主な救助活動事例

## 1 建物火災

共同住宅3階から煙と炎が見えるとの通報により出動する。現着時、建物東側玄関ドアの隙間から黒煙と西側窓から火煙を確認、逃げ遅れがいるとの情報を得たため、ホースを延長し玄関ドアを開放したところ、腹臥位で倒れている要救助者を発見、直ちに徒手にて屋外へ救出する。さらに、建物内部を検索するも他に要救助者はなし。

(所要時間 21分)

## 2 交通事故

年齢不明の女性、列車に轢かれたとの通報により出動する。現着時、要救助者は列車に挟まれておらず、パンタグラフの下降及び他の車両停車確認後、隊員が列車の下に進入、バックボードを使用し徒手にて救出する。

(所要時間 13分)

## 3 建物事故

小学2年生の男児、建物内の倉庫と壁の間に頭部を挟み抜けだせないとの通報により出動する。エアージャッキを使用し間隙を拡げ救出する。

(所要時間 12分)

## 4 その他

70歳男性が飲酒し川に転落したものの。現着時護岸にて救急隊が接触するも護岸から引き上げることが出来ないため救助隊応援要請となる。救助工作車車載クレーン及び担架を使用し、要救助者を救出する。

(所要時間 11分)

## 5 その他

母親が誤って車内に11カ月の女児を残しロックをしてしまったもの。車両の施錠状況を確認し、車両ドア鍵開け具にて解錠を試みるも解錠出来ず。所有者に承諾を得た後、運転席側後部三角窓をレスキューハンマーにて破壊し救出する。

(所要時間 15分)

# 119番統計



# 119番通報状況

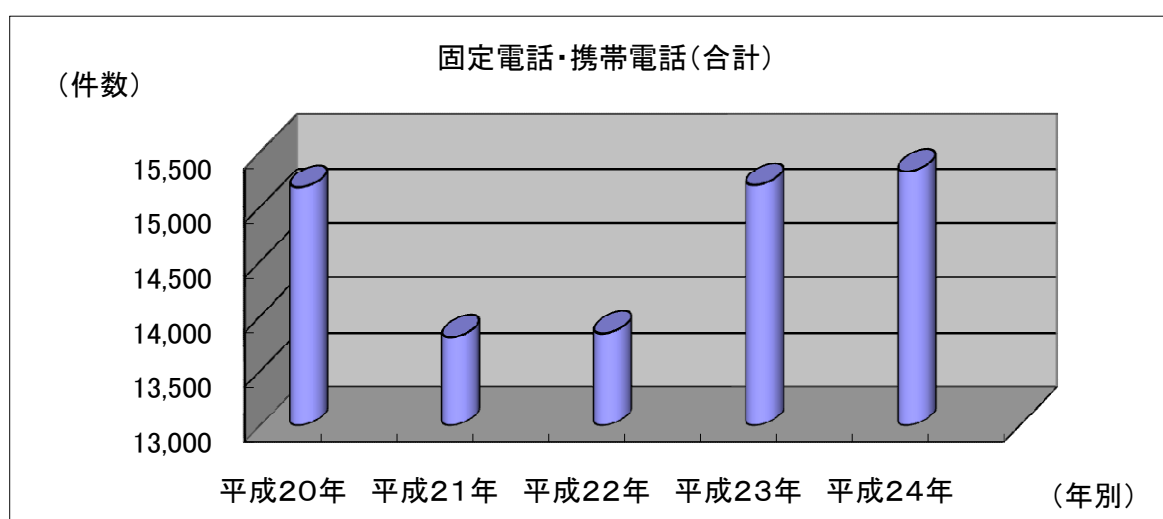
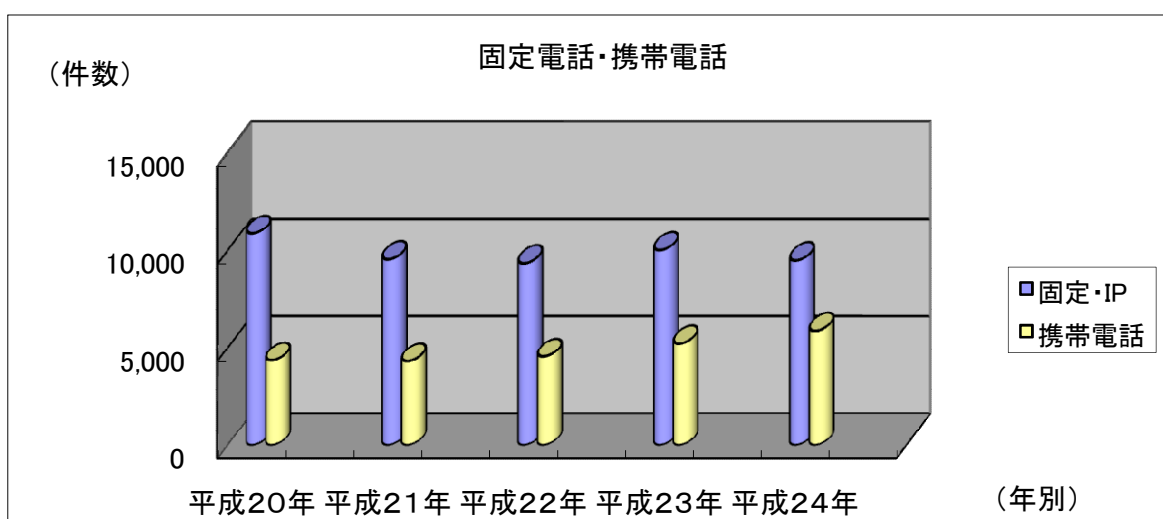
平成24年中の通報件数は、15,326件(携帯電話による通報は5,853件)でした。

携帯電話による通報は、5,853件で昨年(5,205件)より約12%増加し、年々増加傾向にあります。

通報内容は、災害(火災、救急、救助、警戒)が9,832件で、全体の約64.2%で最も多く、次に休日当番医の問い合わせ等が2,429件で約16%、いたずら・間違い通報が1,144件で約7.5%、試験・近隣消防本部への転送が892件で約6%でした。

その他の1,029件の中には、ペンダント所持者からの救急要請が20件ありました。

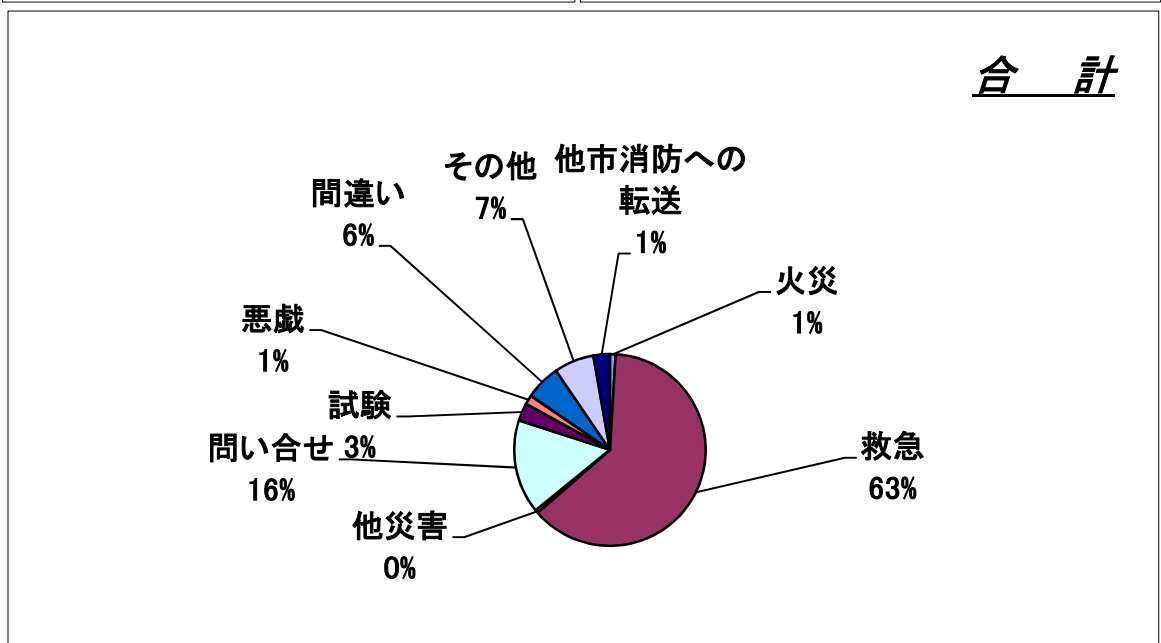
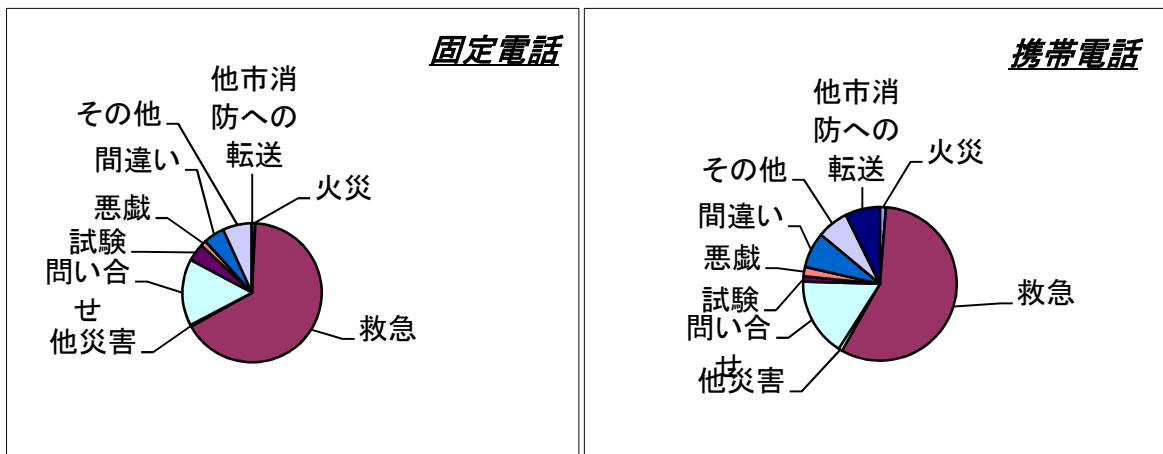
	平成20年	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年
固定・IP	10,850	9,527	9,324	9,993	9,473
携帯電話	4,328	4,282	4,520	5,205	5,853
合計	15,178	13,809	13,844	15,198	15,326



# 平成24年火災報知専用電話等(119番)種別受信状況

受信内訳	固定電話	携帯電話	累 計
火 災	70	73	143
救 急	6,273	3,336	9,609
他 災 害	34	46	80
問 い 合 せ	1,467	962	2,429
試 験	395	67	462
悪 戯	126	112	238
間 違 い	464	442	906
そ の 他	644	385	1,029
他 消 防 へ の 転 送	0	430	430
合 計	9,473	5,853	15,326

※ 同一災害で、複数通報や結果として災害に至らなかった場合等がありますので、災害件数と一致しません。



メ モ

Handwriting practice lines consisting of multiple sets of horizontal dashed lines for tracing and writing.





**草加市消防本部**